

空間ソムリエ（高床タイプ）

施工手順書

TSE7102-002-1

株式会社ダイドー

目次

使用工具・現地調達材	2
1. 使用工具	2
2. 現地調達材	2
部品一覧	2
施工フローチャート	5
施工手順	6
1. 墨出し（柱位置・基礎サイズ）	6
2. 基礎の穴掘り	7
3. 捨てコンの施工	7
4. 支柱の組立	8
5. 支柱の施工	10
6. 基礎梁の施工	11
7. 梁の施工	12
8. 躯体のレベル出し	16
9. 端金具の取付	17
10. 大引きの施工	18
11. 床材の施工	20
12. 幕板の施工	23
13. 出隅カバーの施工	27
14. 柱隙間カバーの施工	27
15. 手摺の施工	28
16. コンクリートの流し込み	30
17. 水抜き穴の加工	30
18. 完成	30

使用工具・現地調達材

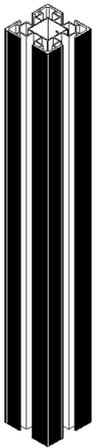
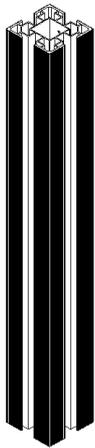
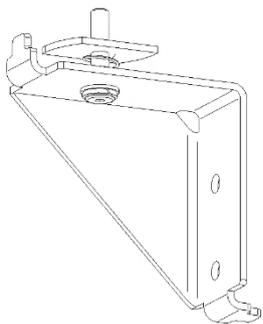
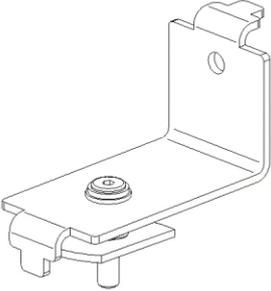
1. 使用工具

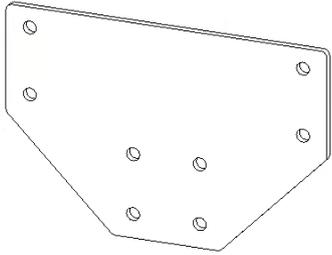
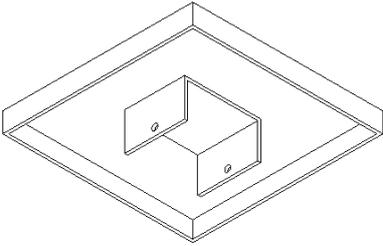
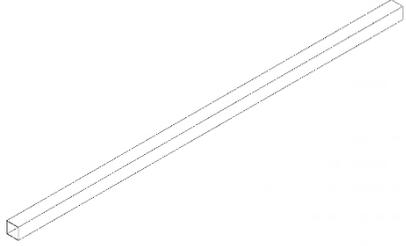
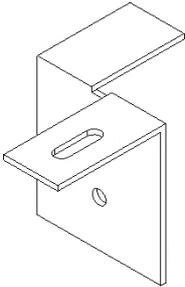
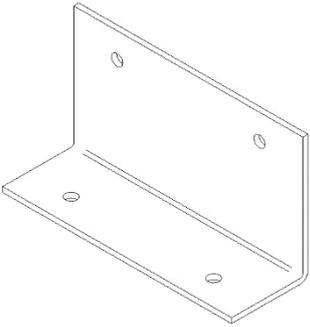
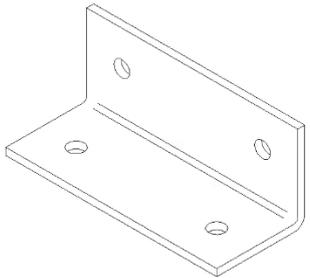
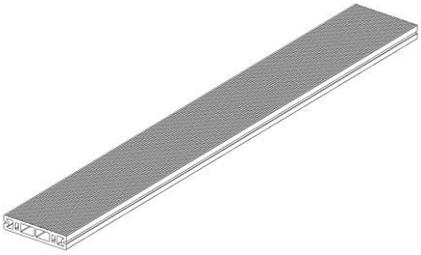
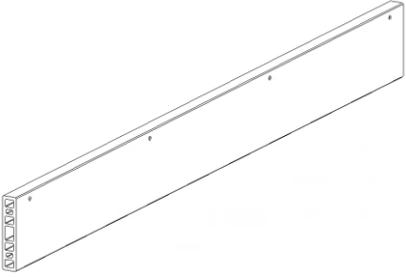
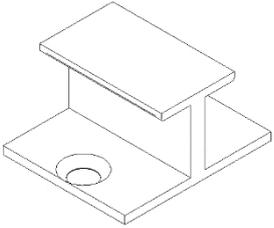
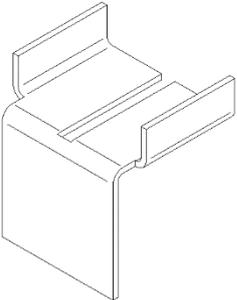
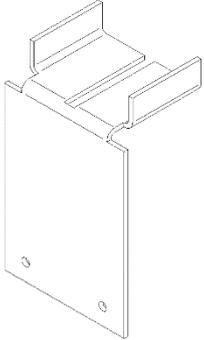
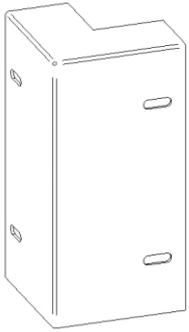
- ・コンベックス
- ・墨つぼ、チョークライン
- ・電動ドライバー
- ・プラスビット（2番）
- ・六角レンチ（2面幅_4mm）
- ・ドリル（Φ8～10）・・・水抜き穴あけ用
- ・水平器
- ・基礎工事に必要な工具類（掘削工具等）

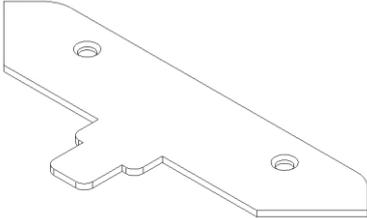
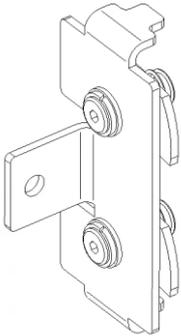
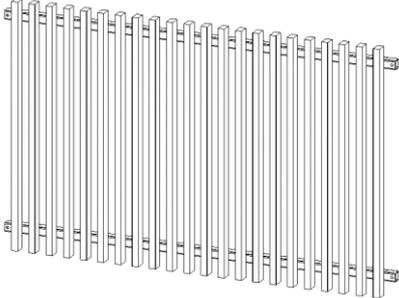
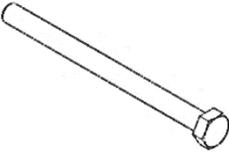
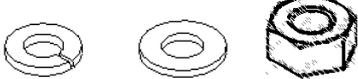
2. 現地調達材

- ・碎石
- ・コンクリート
- ・基礎の型枠
- ・レベル調整材

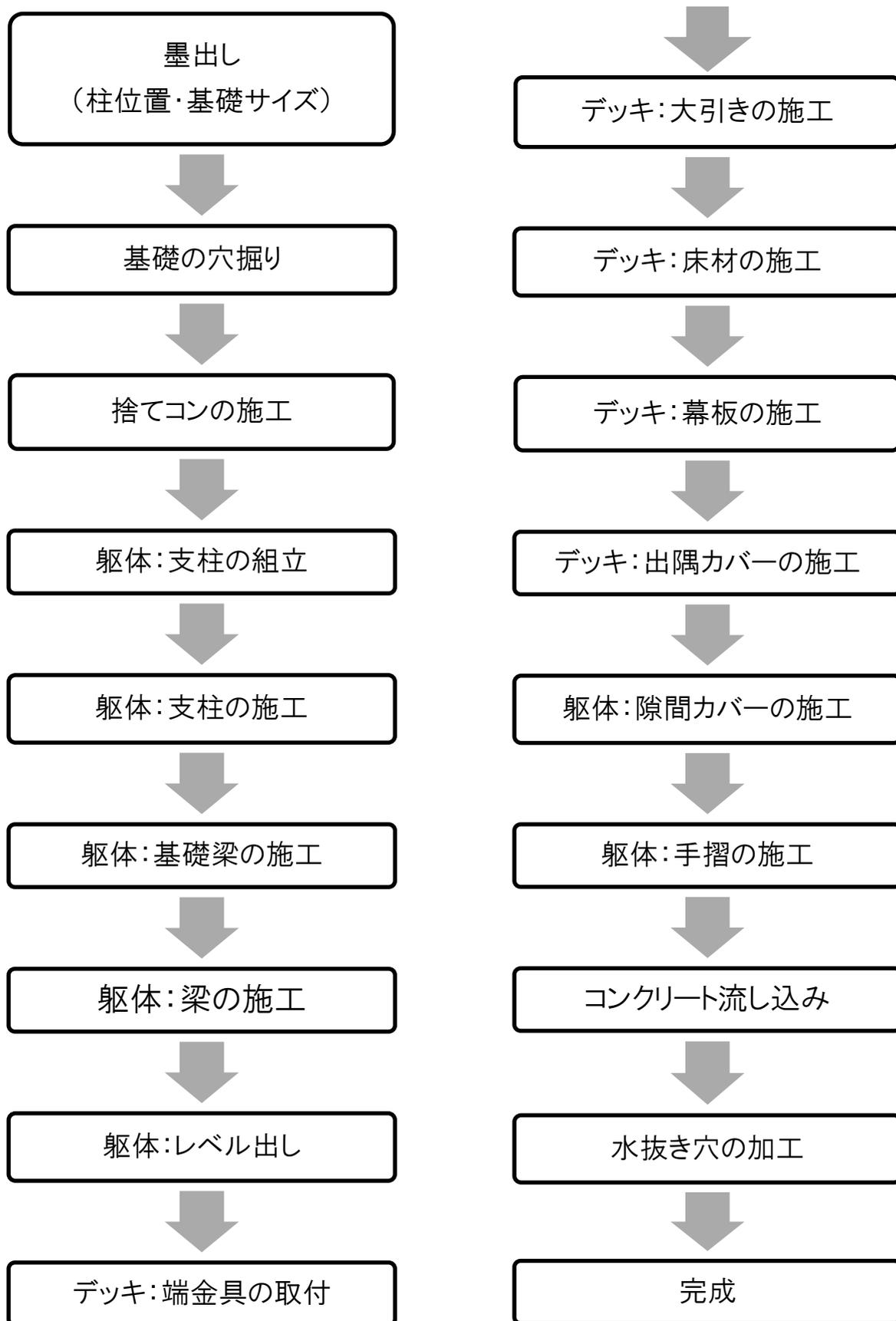
部品一覧

柱 	梁 	アンカー棒 
梁-柱 固定金具 	上部 固定金具 	裏あてプレート 

<p>基礎補強プレート</p> 	<p>フタ</p> 	<p>デッキ：大引き</p> 
<p>デッキ：端金具</p> 	<p>デッキ：大引き固定金具</p> 	<p>デッキ：大引き固定金具（前）</p> 
<p>デッキ：床材</p> 	<p>デッキ：幕板</p> 	<p>デッキ：固定金具</p> 
<p>デッキ：幕板金具</p> 	<p>デッキ：幕板金具 中</p> 	<p>デッキ：幕板金具 中</p> 

<p>デッキ：柱隙間カバー</p> 	<p>手摺：固定金具</p> 	<p>手摺：縦格子手摺</p> 
<p>M8 極低頭ボルト 長さ：20 mm/40 mm</p> 	<p>M10 六角頭ボルト 長さ：130 mm</p> 	<p>M8/M10 平ワッシャ M8/M10 スプリングワッシャ M10 六角ナット</p> 
<p>M4×13/M4×16 鍋頭ピアスビス M4×16 鍋頭木ビス M4×16 鍋頭木ビス(色付)</p> 	<p>M4×13 小皿頭ピアスビス M4×16 小皿頭タッピングビス(色付)</p> 	<p>M4×45 皿頭ピアスビス(色付) M4×70 皿頭タッピングビス(色付)</p> 

施工フローチャート

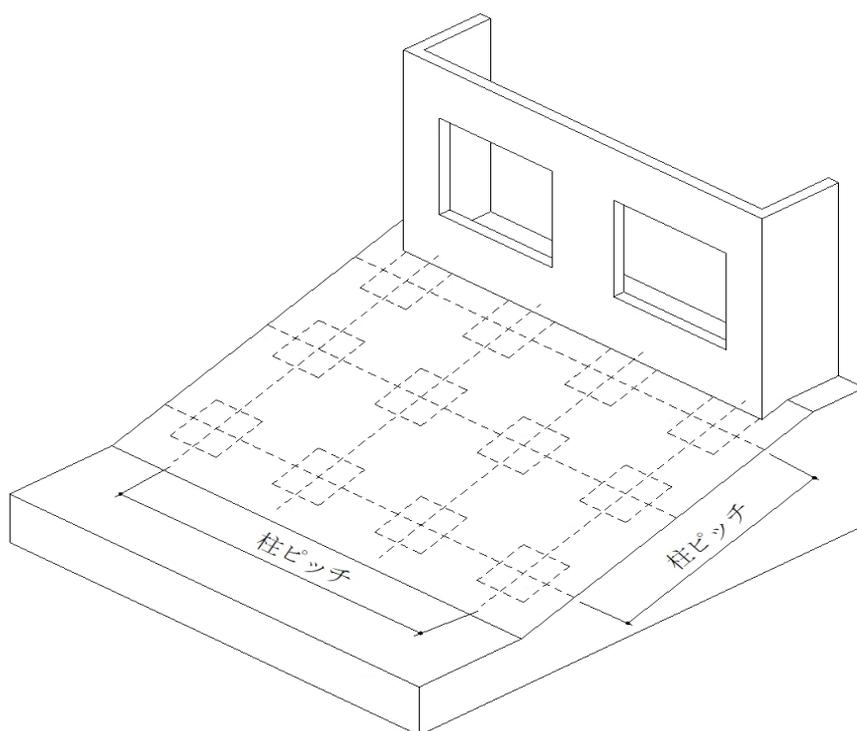
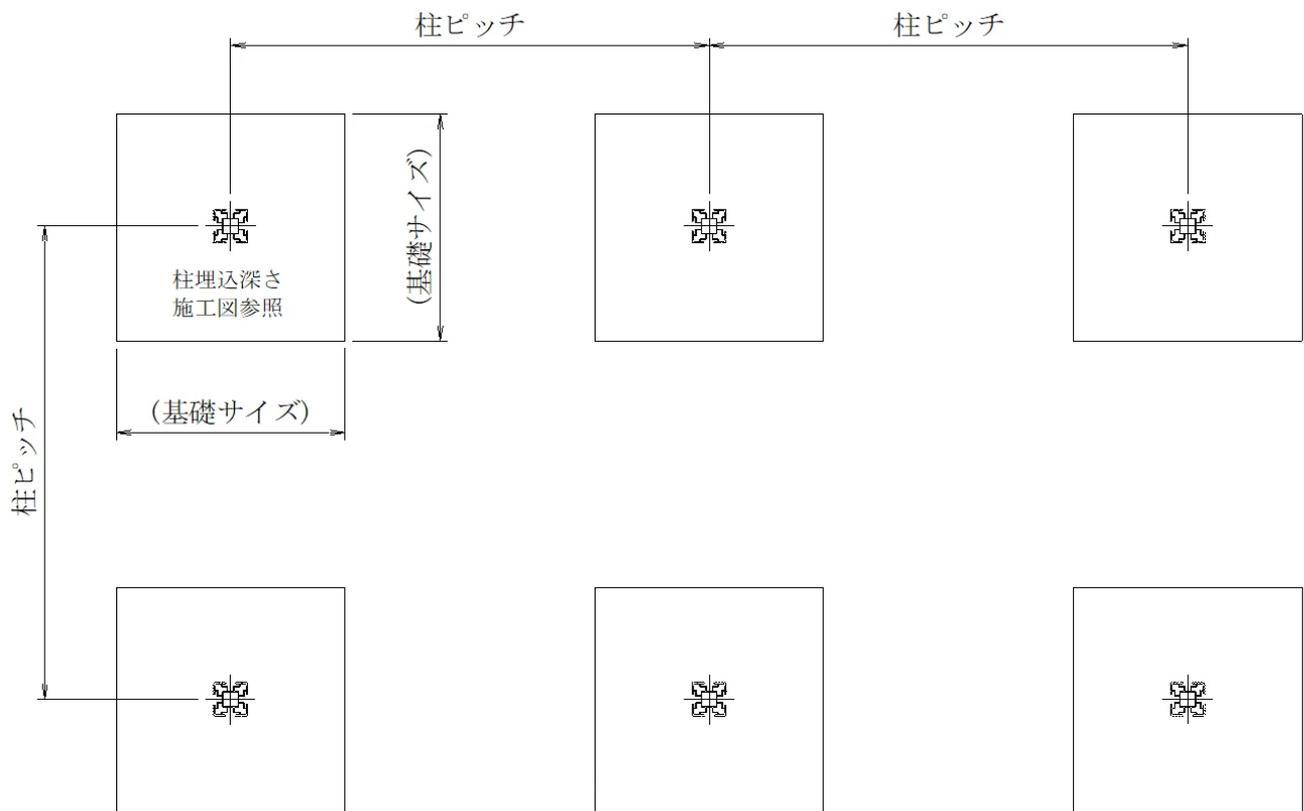


施工手順

1. 墨出し（柱位置・基礎サイズ）

① 施工図面をもとに、柱と基礎の位置を墨出しして下さい。

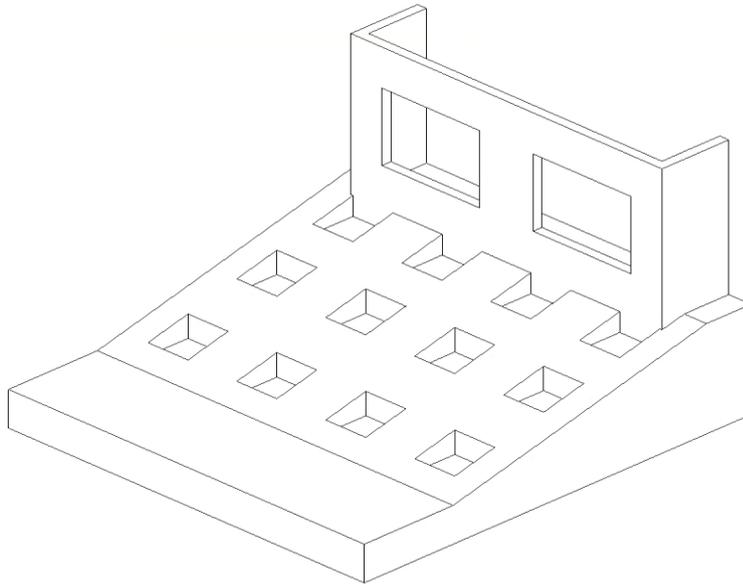
※ 物件毎に、必要となる基礎の形状・サイズ・深さが異なりますので、必ず施工図面を参照してください。



施工手順

2. 基礎の穴掘り

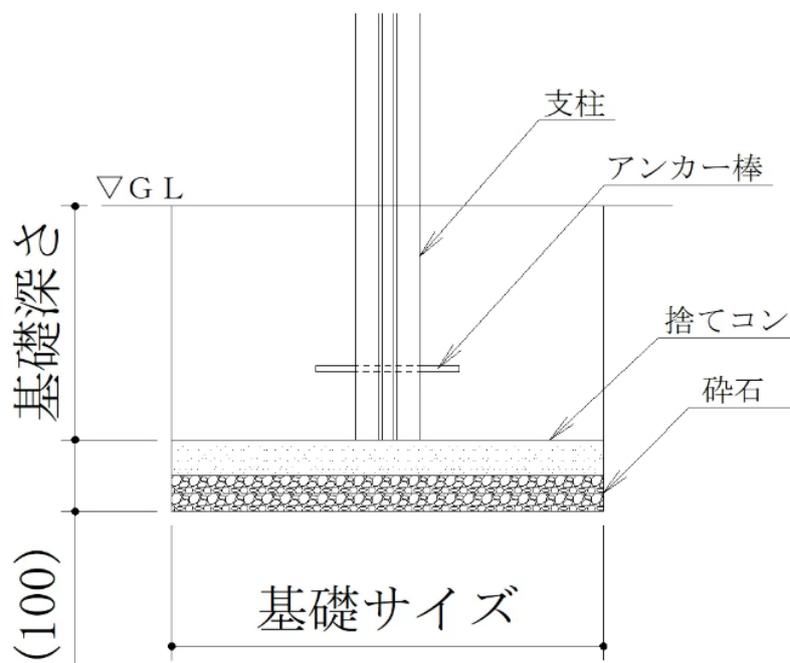
- ① 墨出しを元に、基礎の穴を掘って下さい。



3. 捨てコンの施工

- ① 基礎の穴に砕石を敷き、捨てコンを流し込んで下さい。

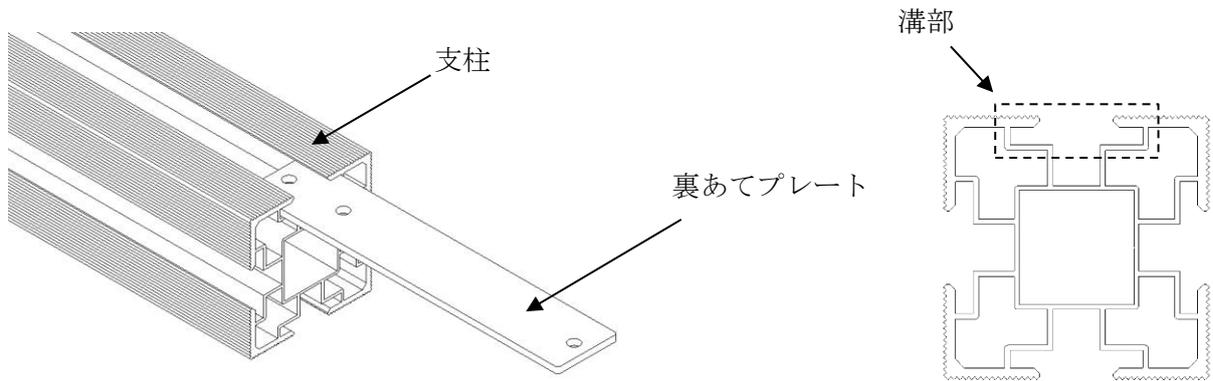
捨てコンは、支柱の埋込深さが、施工図面の指示深さになるように、レベルを調整して下さい。



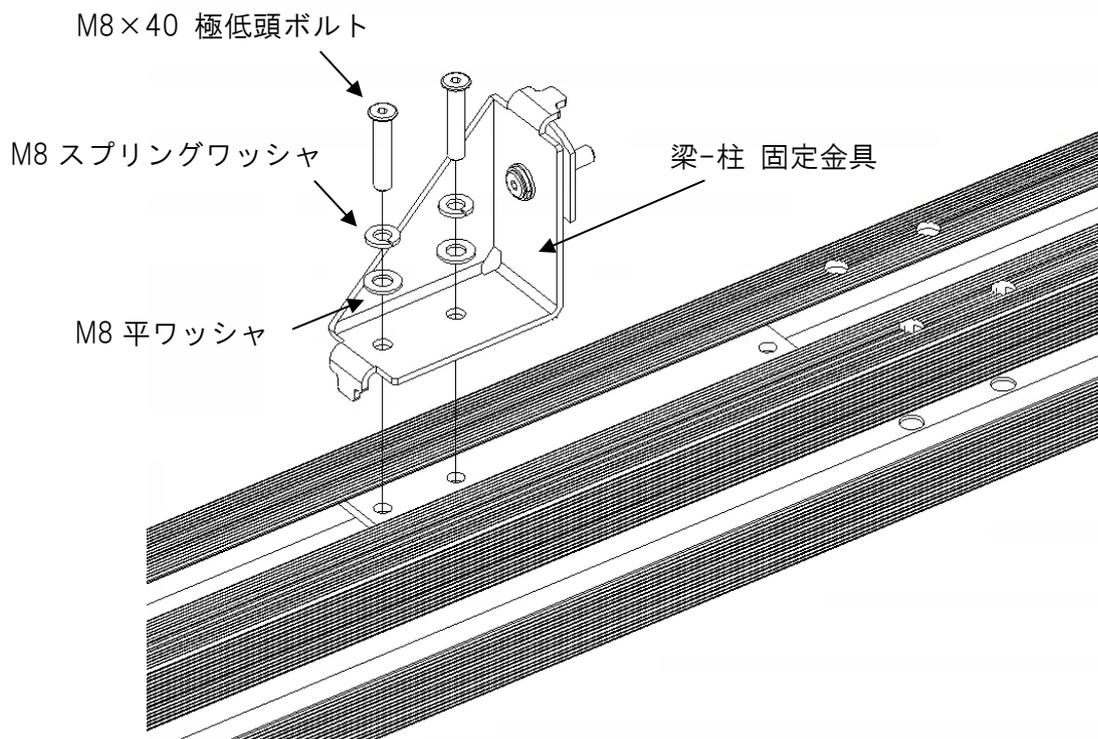
施工手順

4. 支柱の組立

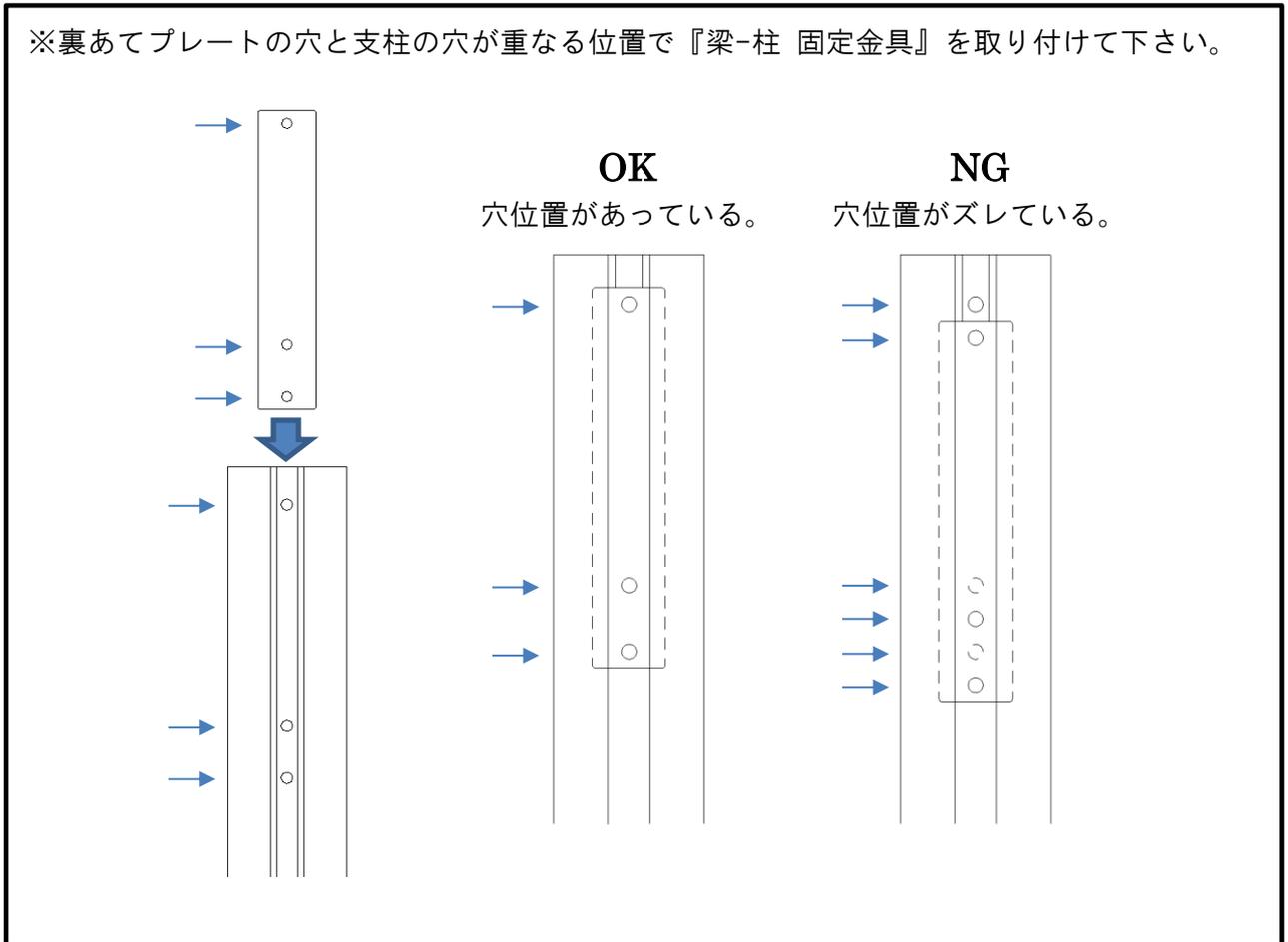
- ① 『裏あてプレート』を支柱の溝部に挿入して下さい。



- ② 裏あてプレートに、『梁-柱 固定金具』を取り付けてください。

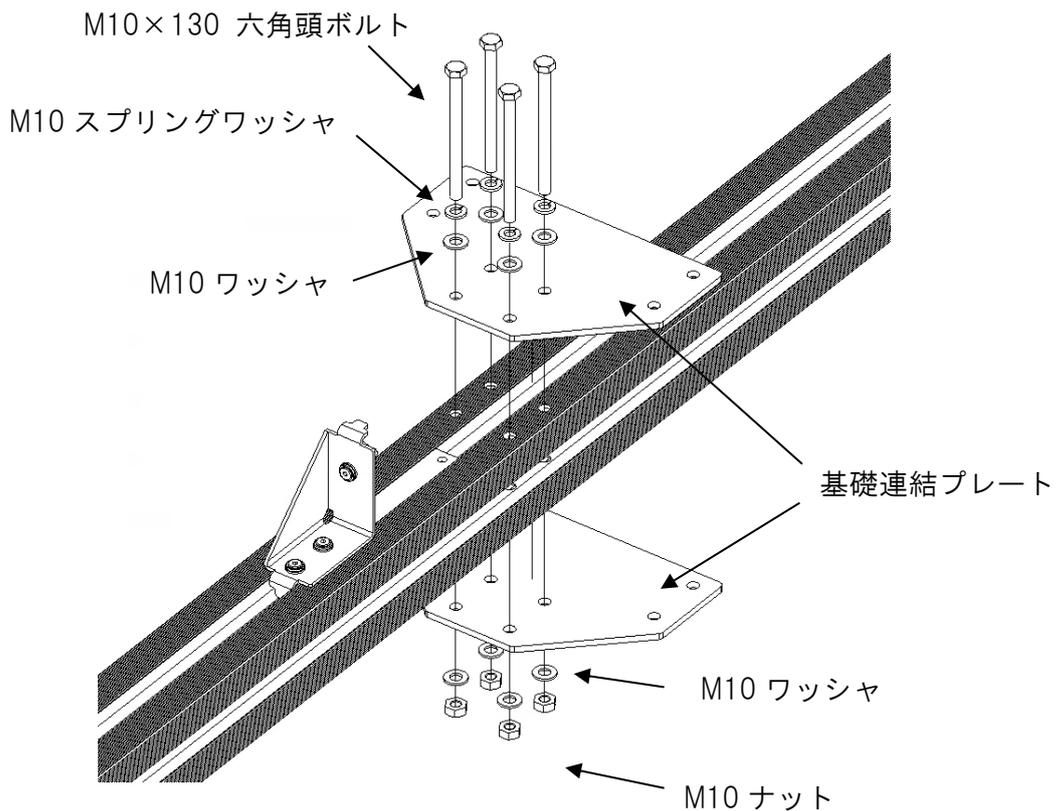


※裏あてプレートの穴と支柱の穴が重なる位置で『梁-柱 固定金具』を取り付けて下さい。



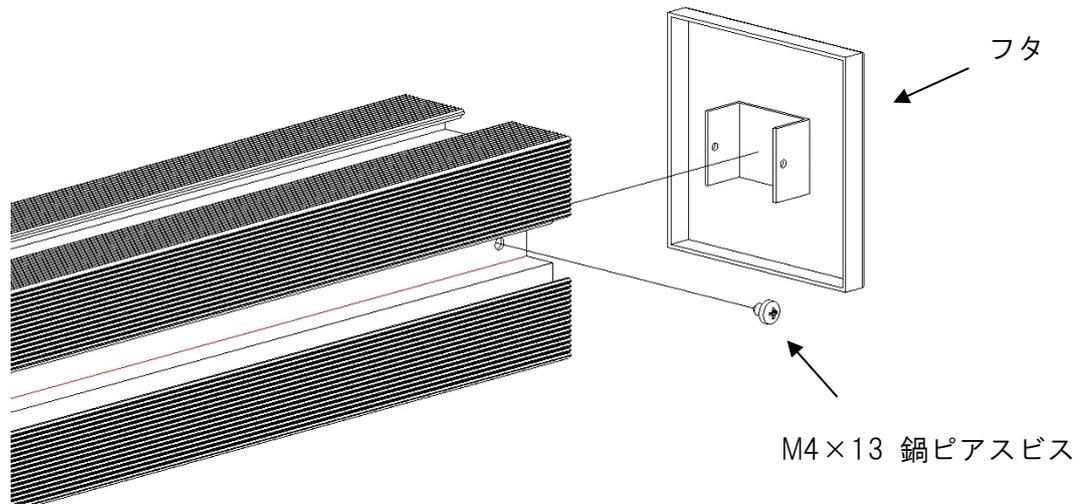
③ 支柱に、『基礎連結プレート』を取り付けてください。

※基礎連結プレートの取り付けが不要な柱もございます。



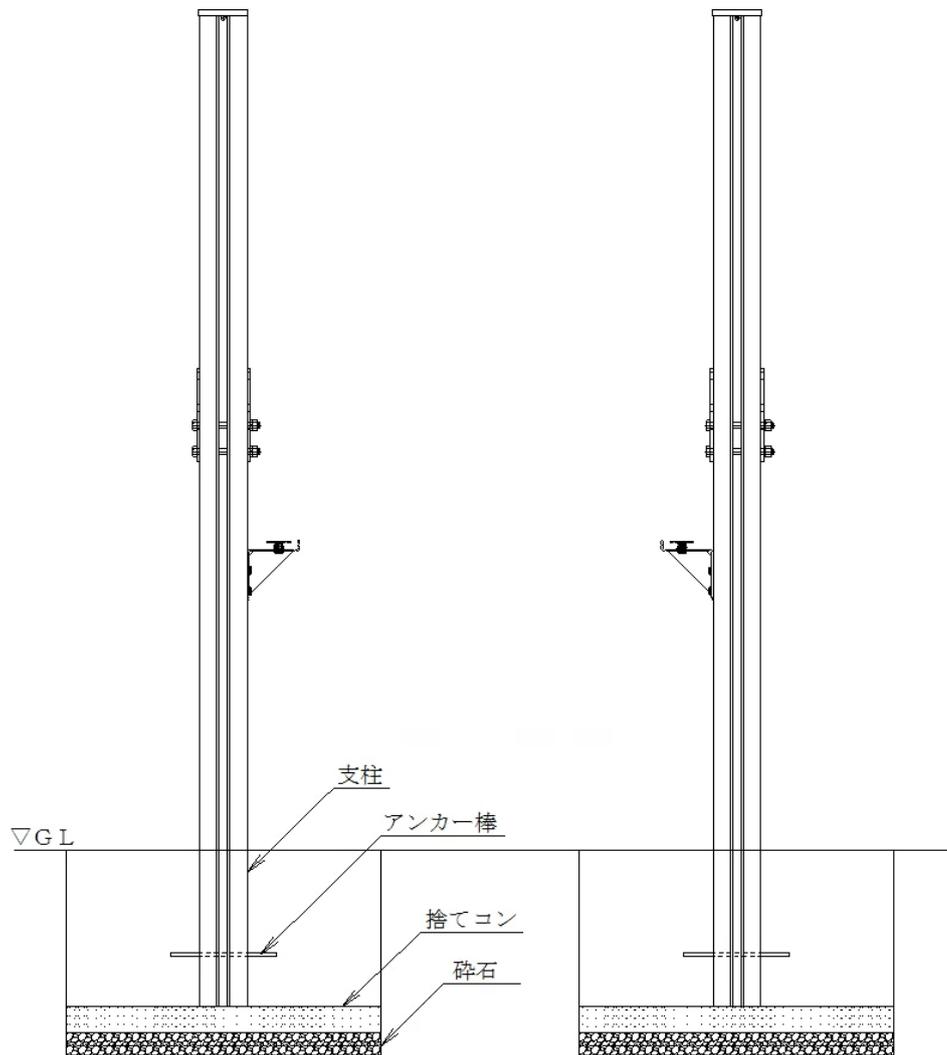
施工手順

- ④ 支柱の上部に、『フタ』を取り付けて下さい。



5. 支柱の施工

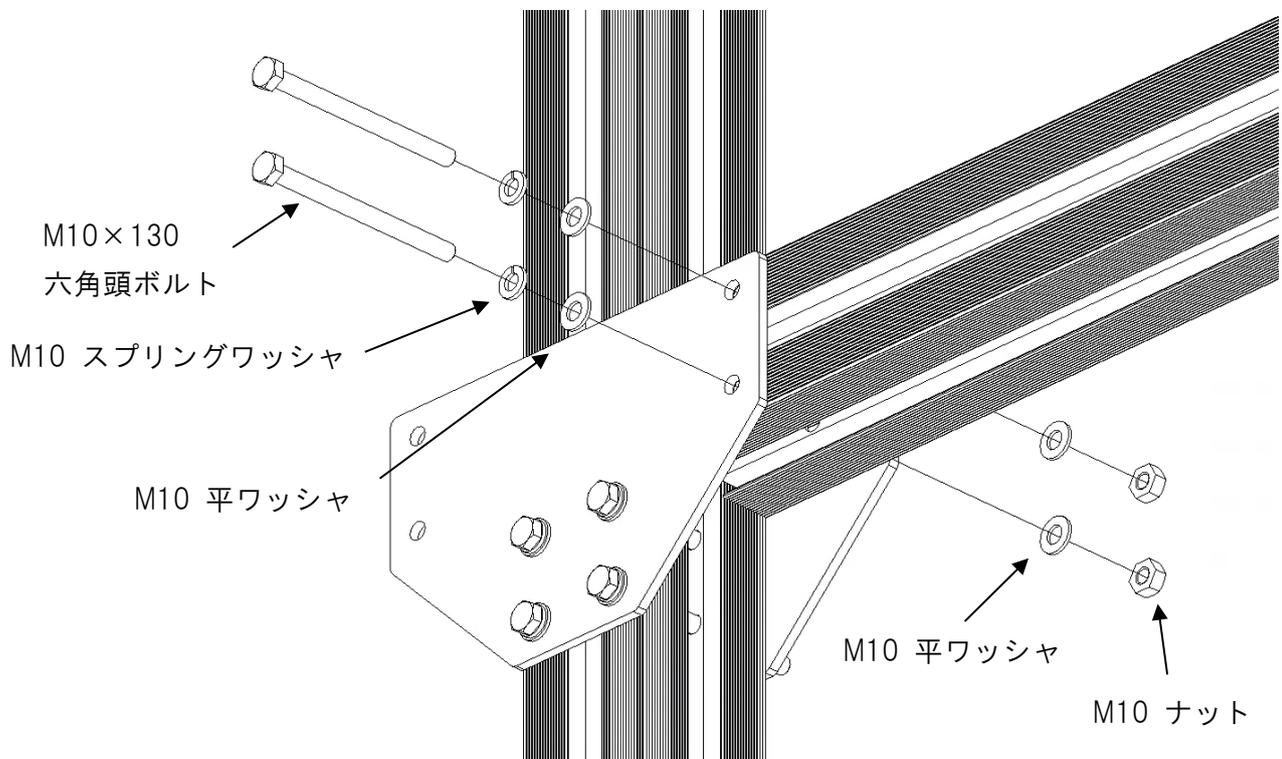
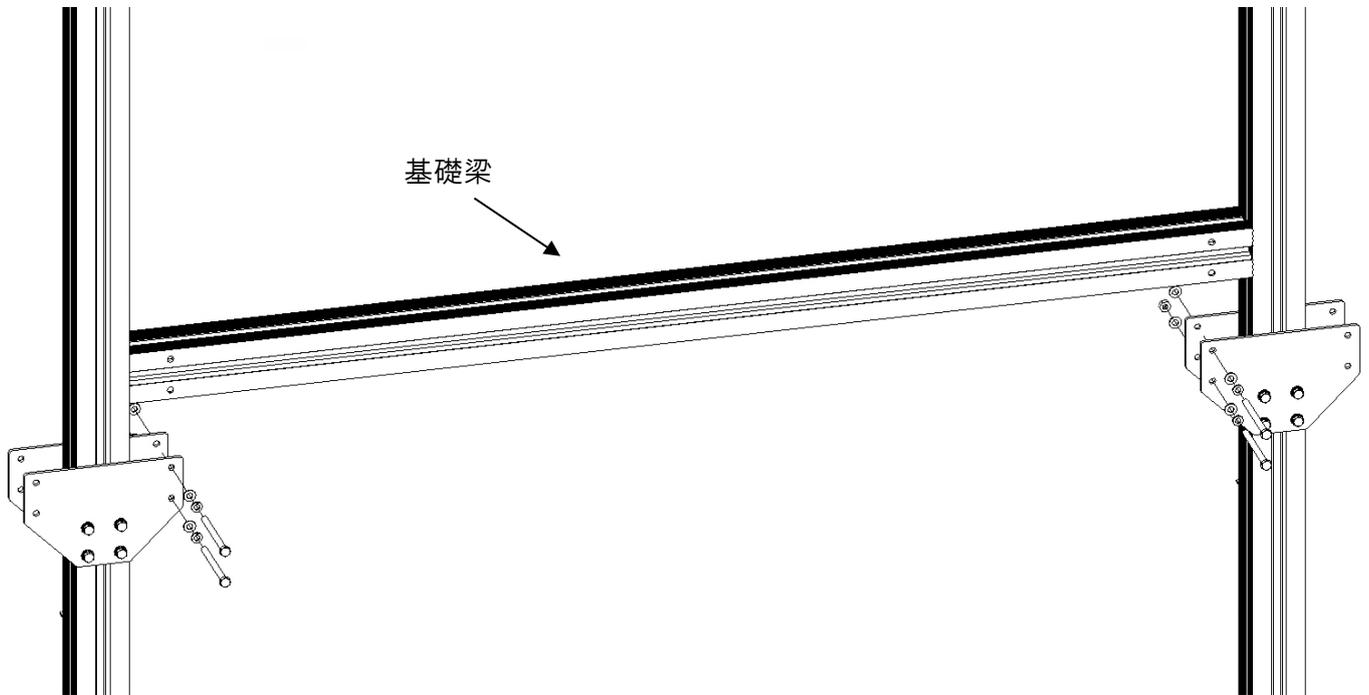
- ① 支柱の種類と場所に注意し、基礎の穴に支柱を立てて下さい。



施工手順

6. 基礎梁の施工

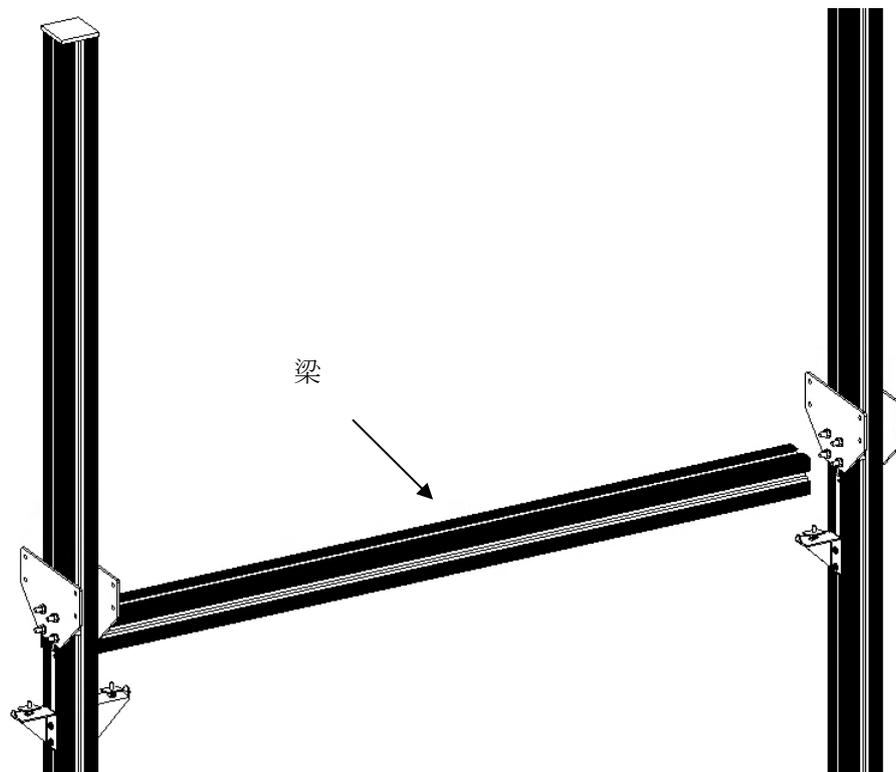
- ① 支柱に取り付けた『基礎連結プレート』の間に、基礎梁をボルトで止付けて下さい。



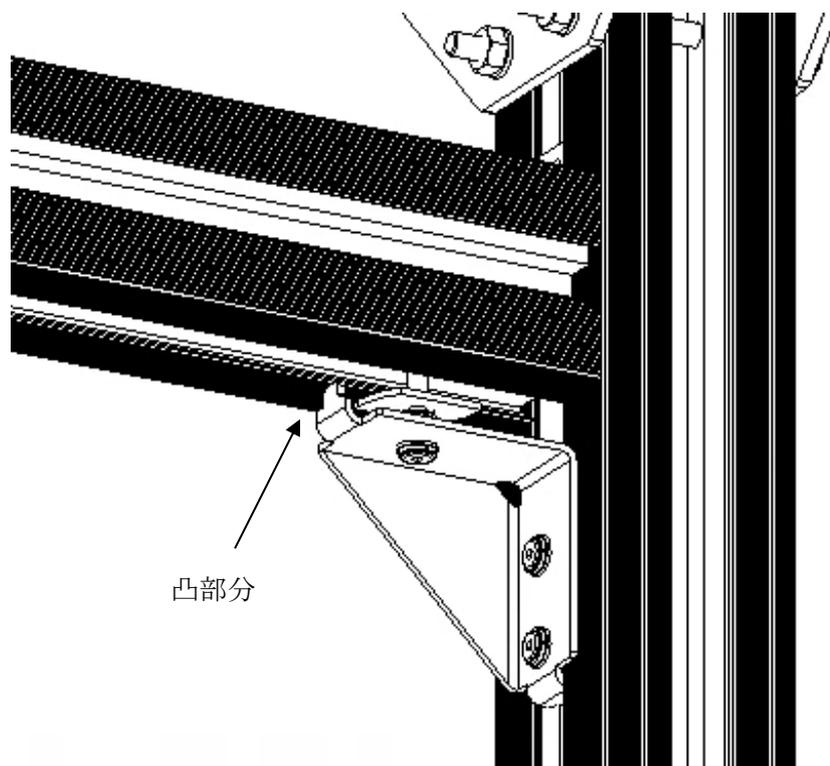
施工手順

7. 梁の施工

- ① 支柱に取り付けた『梁-柱 固定金具』の上に、梁を置いて下さい。

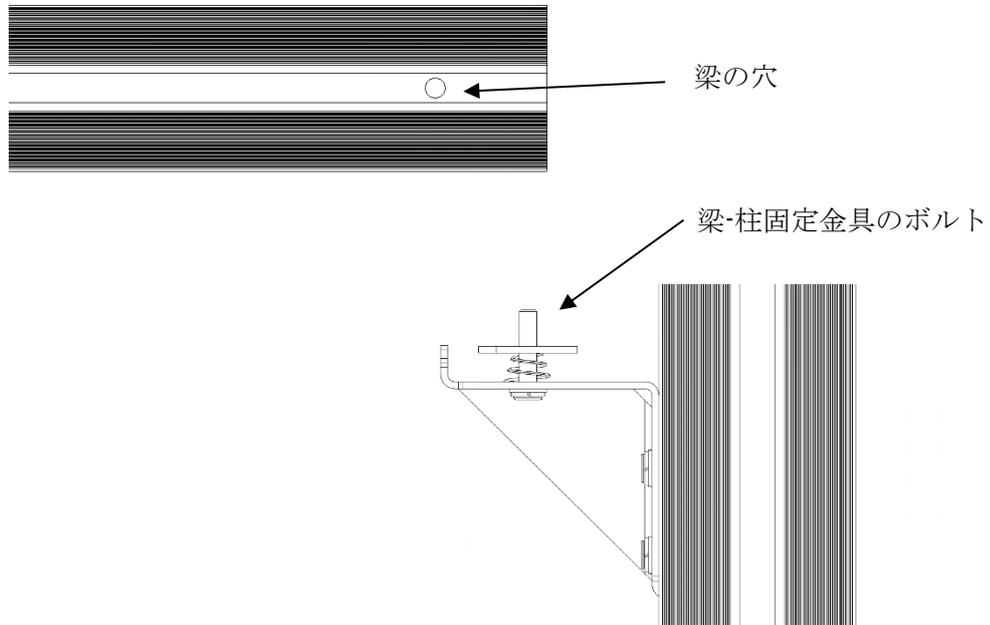


※『梁-柱 固定金具』の凸部分が、梁の溝に嵌るように置いて下さい。

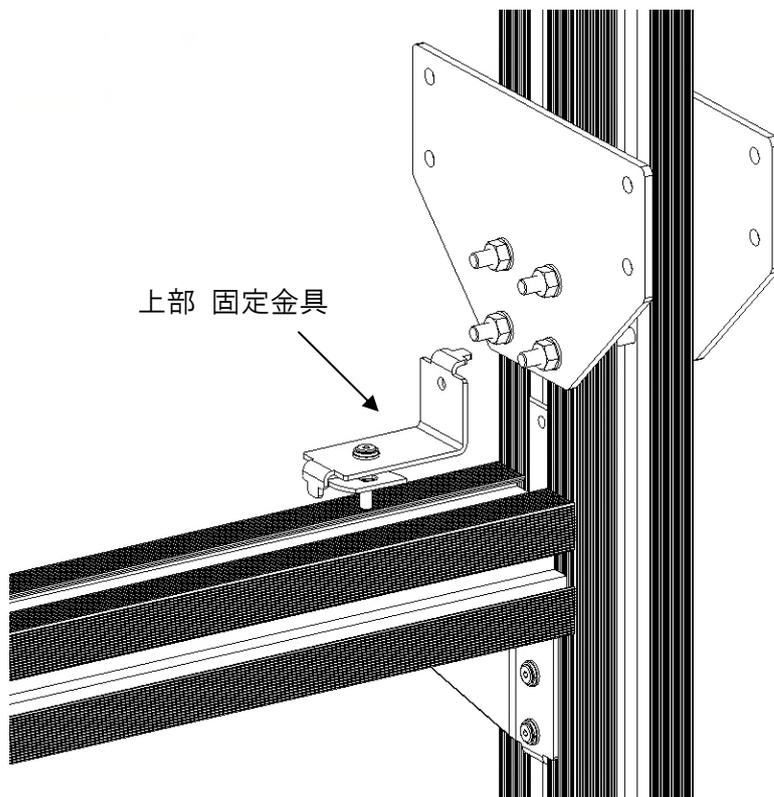


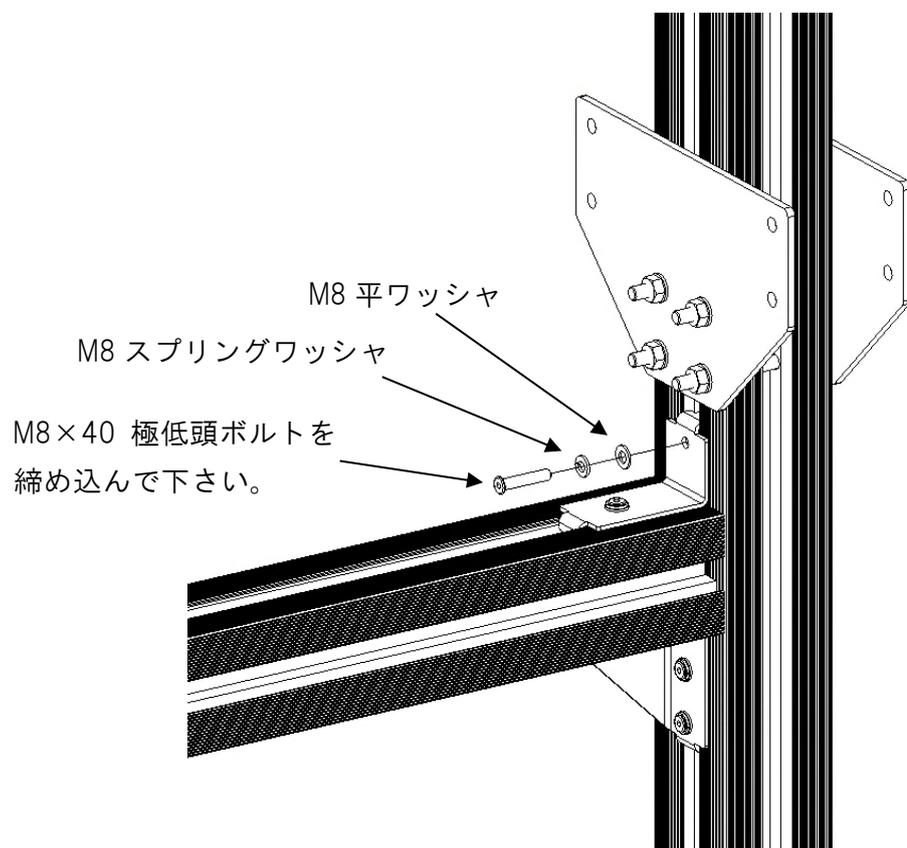
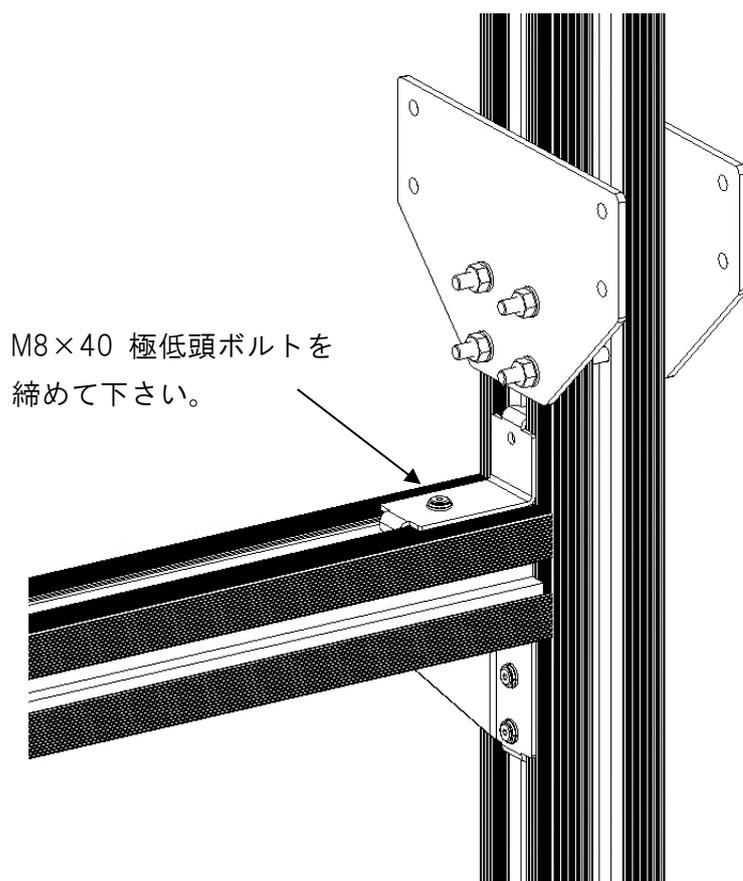
施工手順

※『梁』の端に開いている穴が、
『梁-柱 固定金具』のボルトに刺さるように置いて下さい。



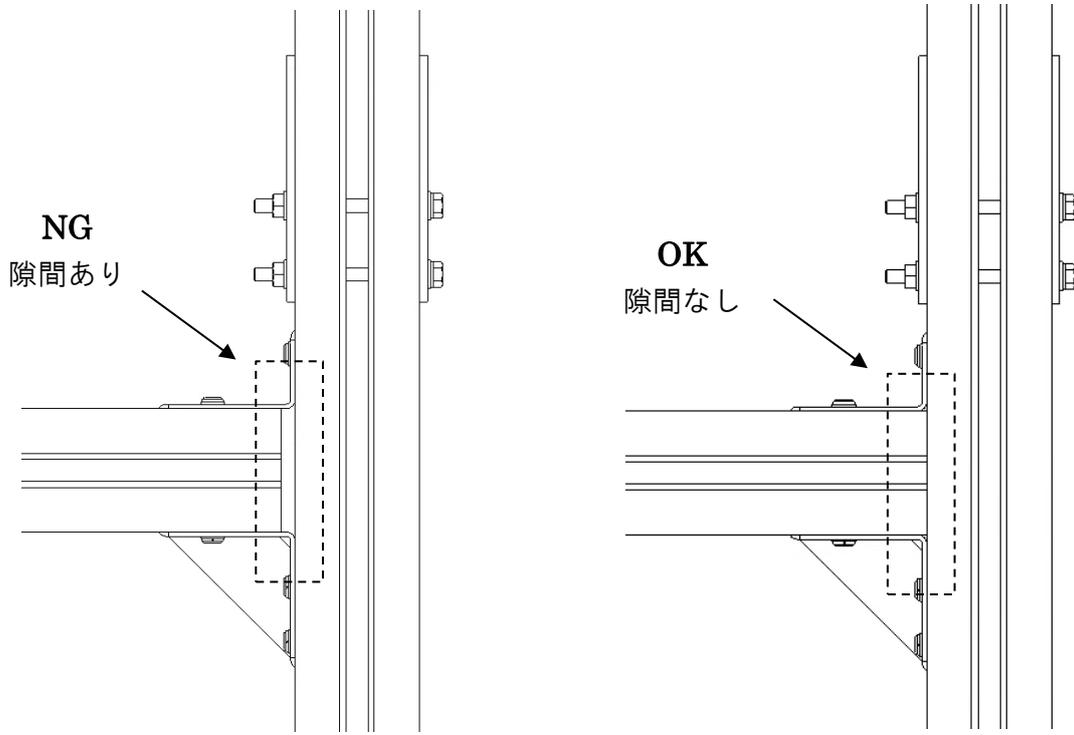
② 『上部 固定金具』を梁の上に施工して下さい。



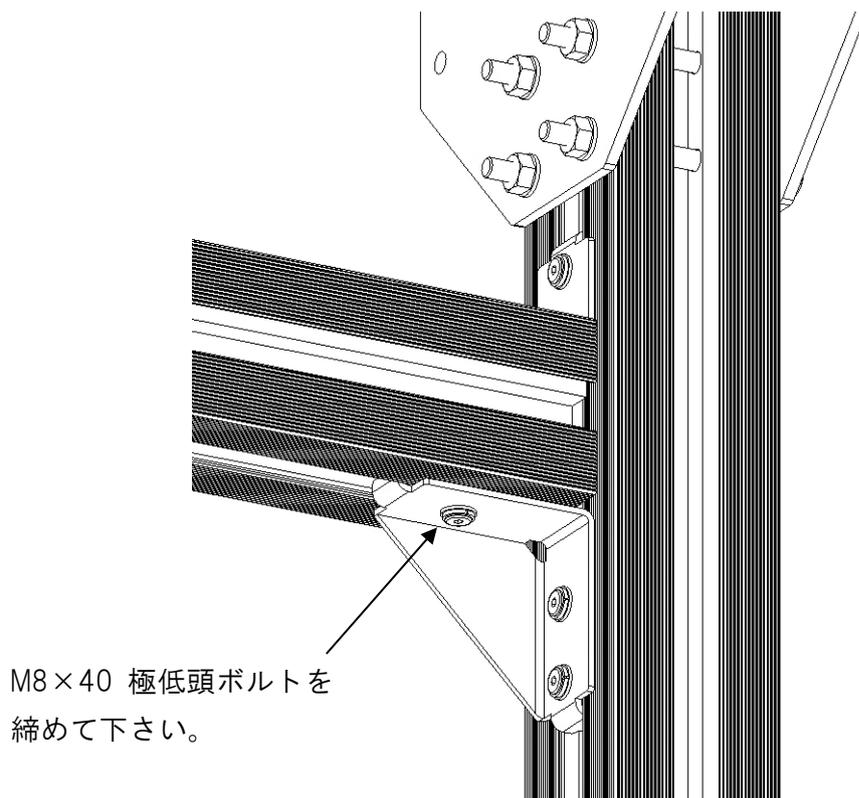


※注意※

※梁と柱の間に隙間が無いように、施工して下さい。



③ 『梁-柱 固定金具』の M8×40 極低頭ボルト を締めて下さい。



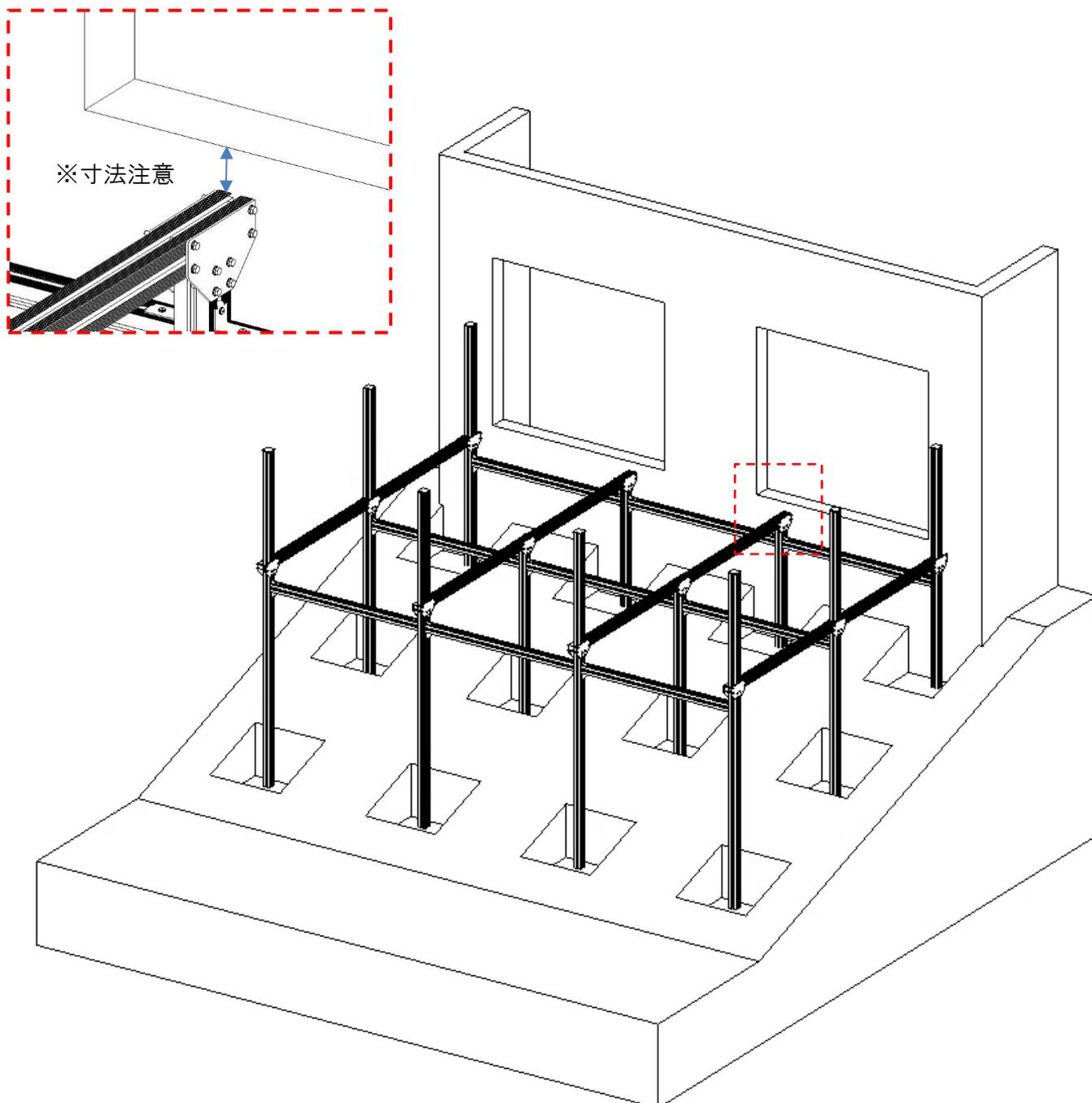
施工手順

8. 躯体のレベル出し

- ① 支柱の垂直 と 梁の水平 のレベルを出してください。
- ② 柱間寸法 を施工図面の寸法にして下さい。
- ③ 建物のサッシ下 から 基礎梁 までの寸法を、施工図の寸法にしてください。

※基礎梁の上にウッドデッキが乗りますので、寸法が異なると施工できません。

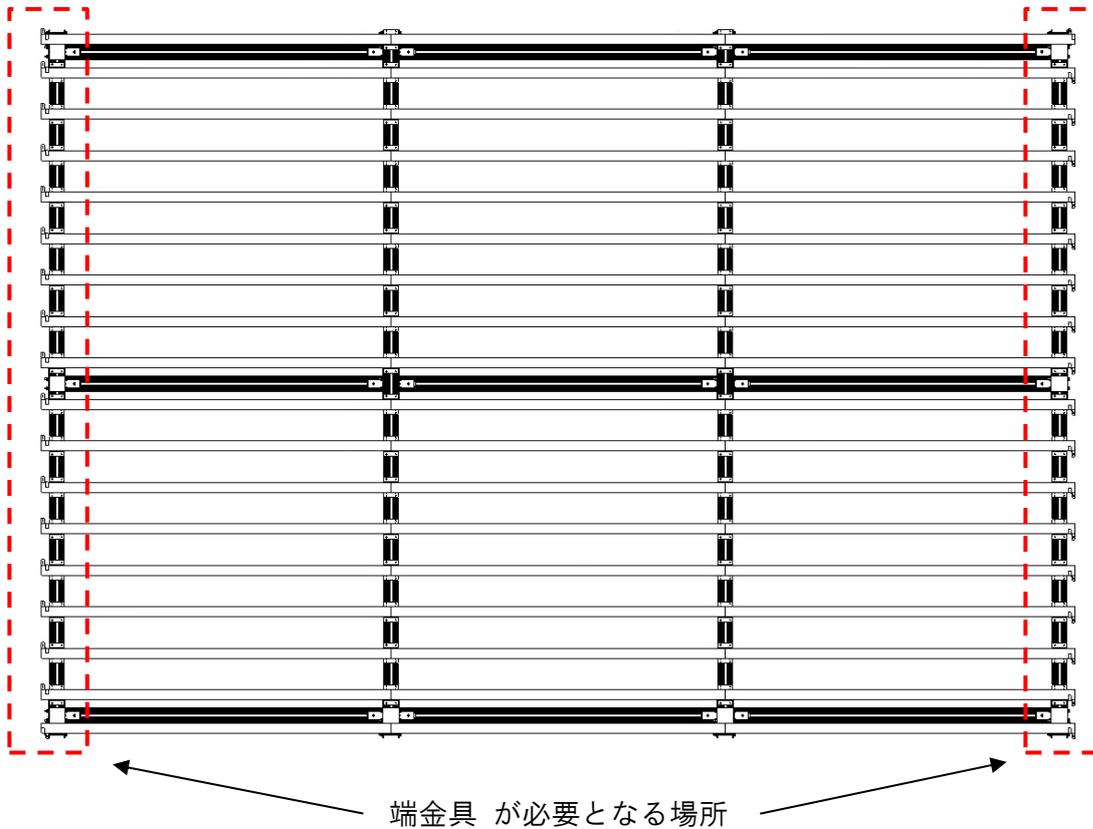
(上記の確認項目に問題がなければ、この段階で基礎のコンクリートを流しても問題ありません。)



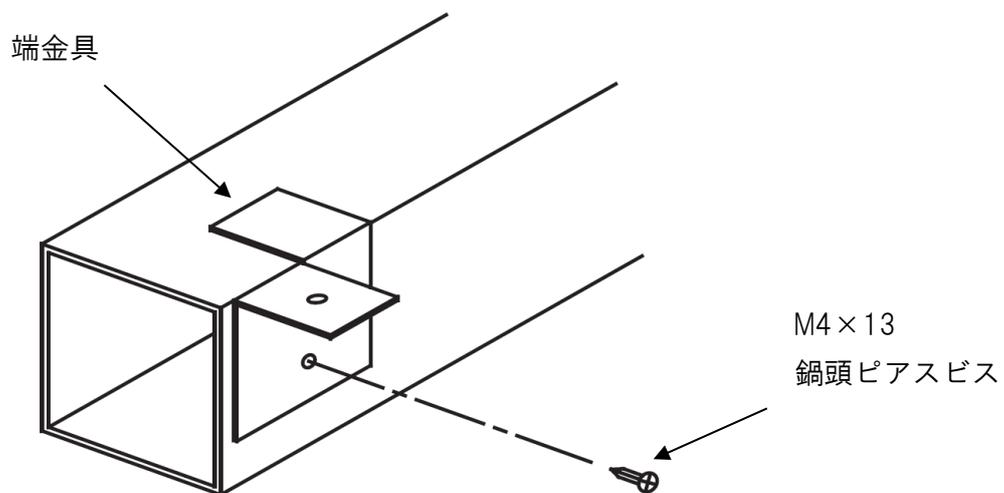
施工手順

9. 端金具の取付

- ① 施工図面を確認し、デッキの端となる大引きに 端金具 を取付けます。



- ② 端金具は、大引きより飛び出さない位置で固定します。



施工手順

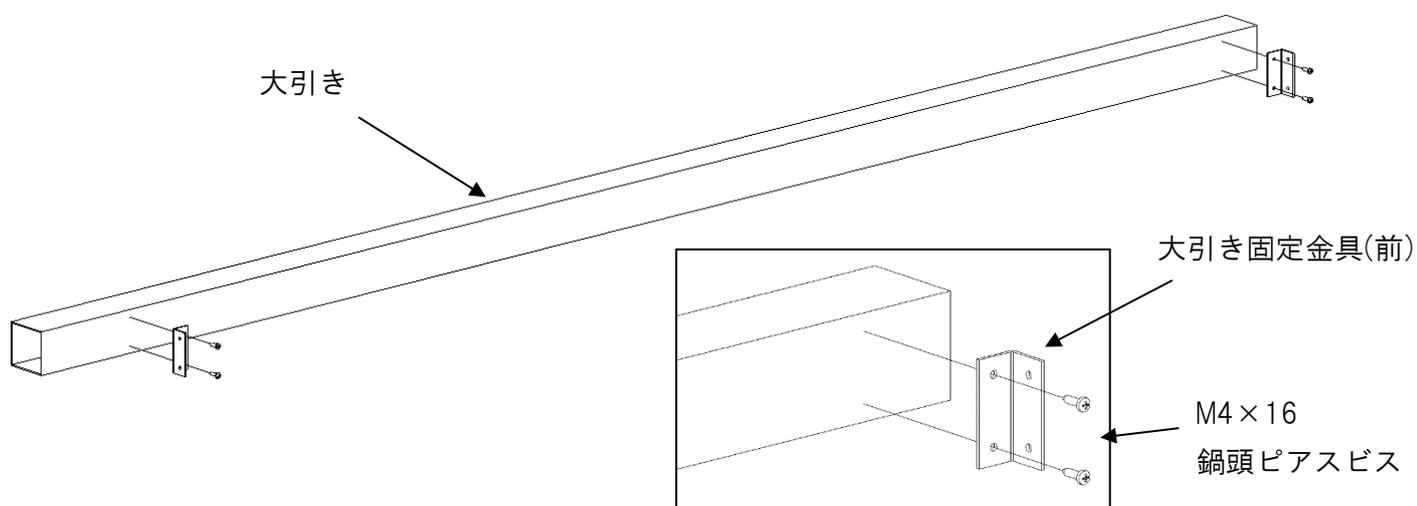
10. 大引きの施工

- ① 施工図面を参照し、大引きの割付を確認してください。
- ② 大引きに 大引き固定金具 を組み付け、躯体 に施工していきます。
※大引き固定金具は、『大引き固定金具（前）』と『大引き固定金具』の2種類ございます。

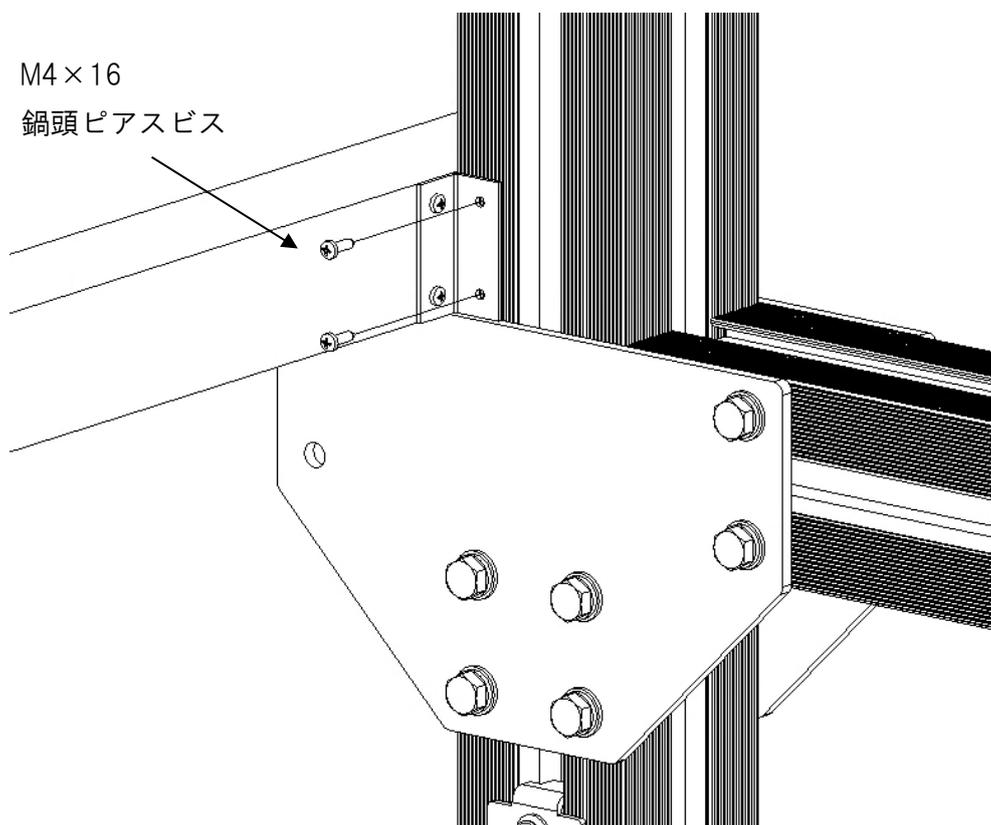
◇大引き固定金具（前）の施工方法

大引き固定金具（前）は、躯体の柱 に 大引き を固定する際に使用します。

- I. 大引き固定金具（前） を 大引き に固定します。



- II. 大引き を 躯体の柱に施工します。

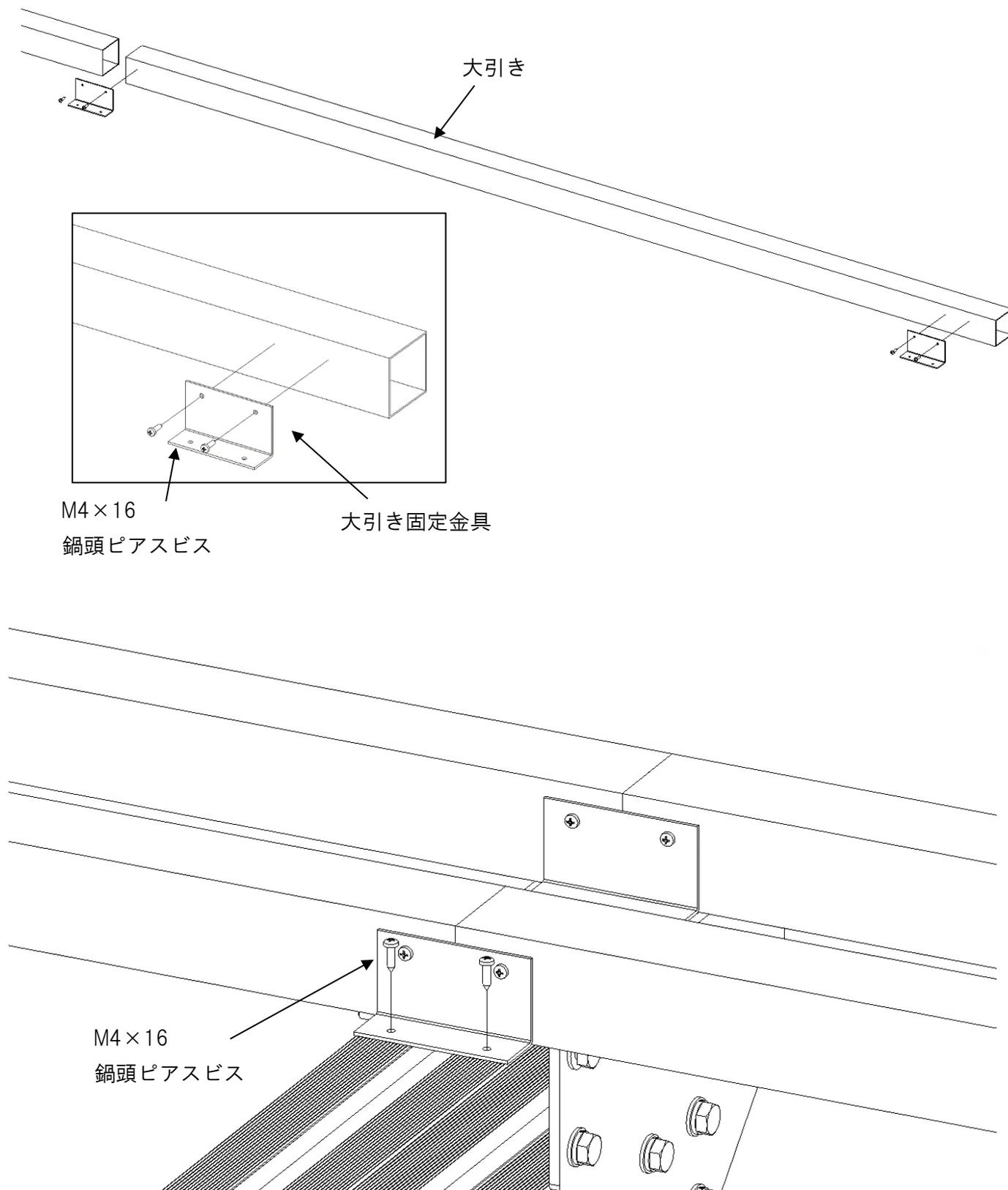


施工手順

◇大引き固定金具 の施工方法

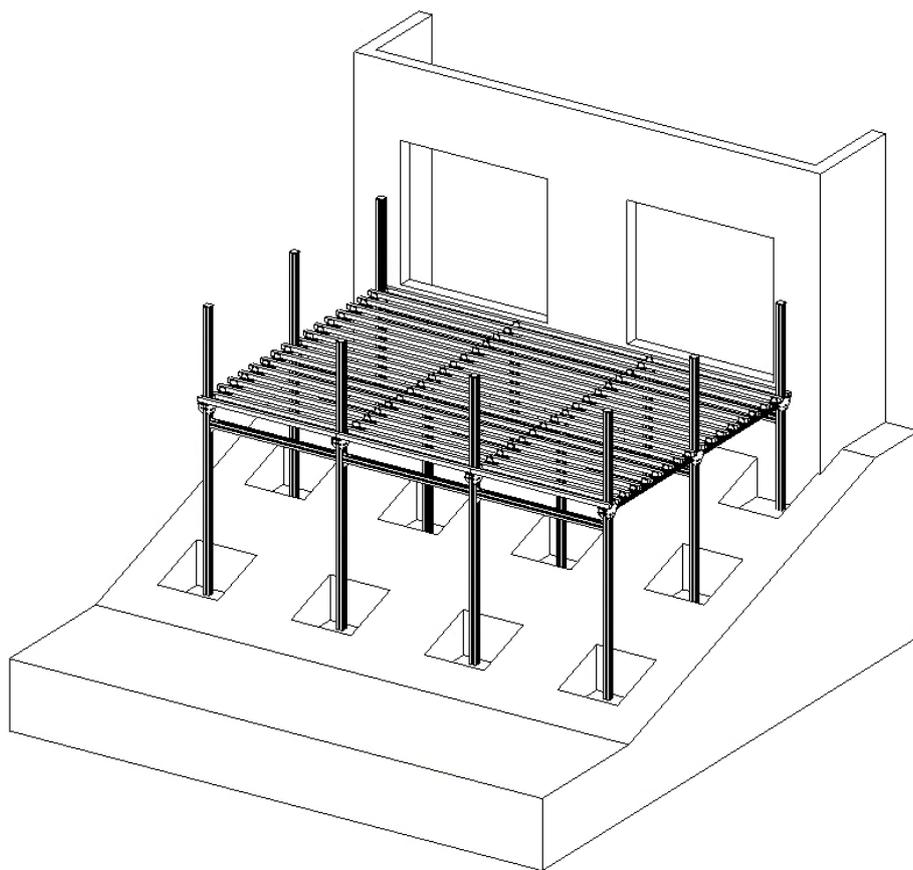
大引き固定金具 は、躯体の基礎柱 に 大引き を固定する際に使用します。

1. 大引き固定金具 を 大引き に固定します。



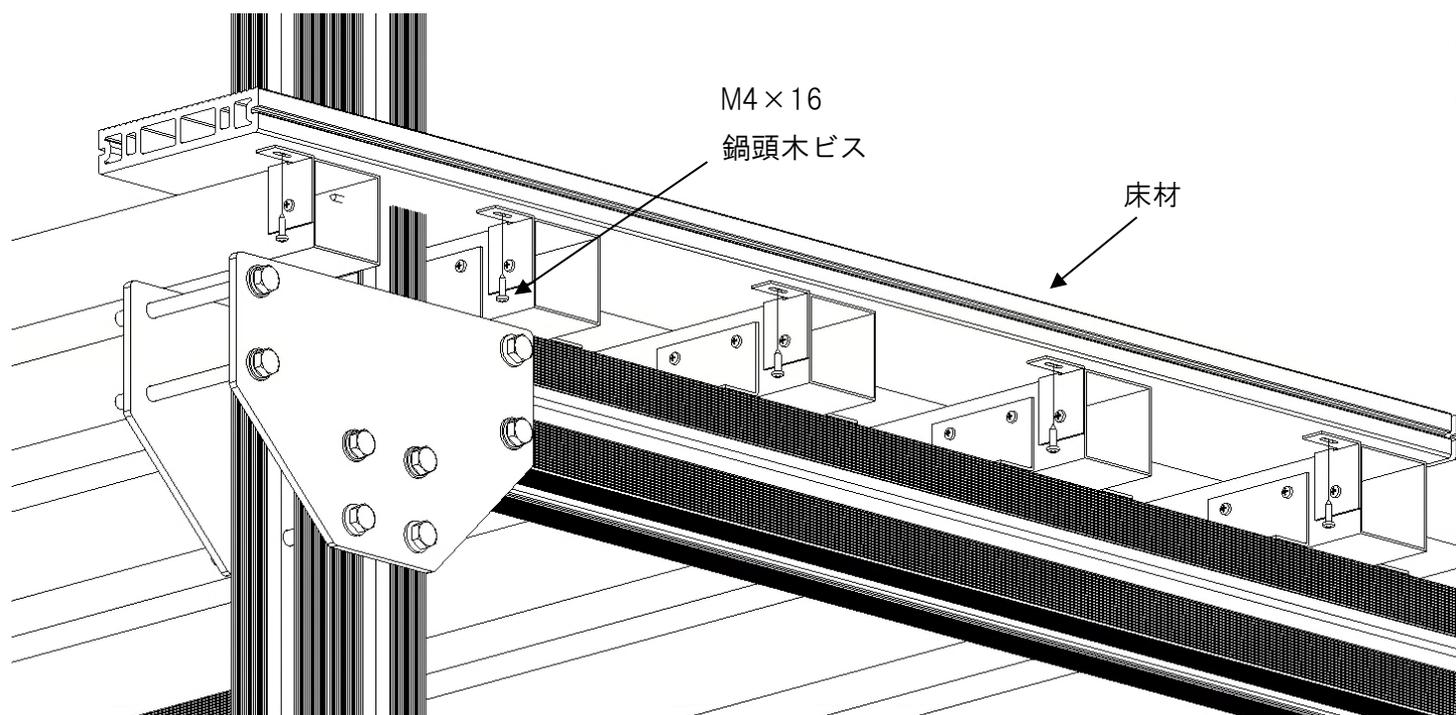
施工手順

大引きの施工完了



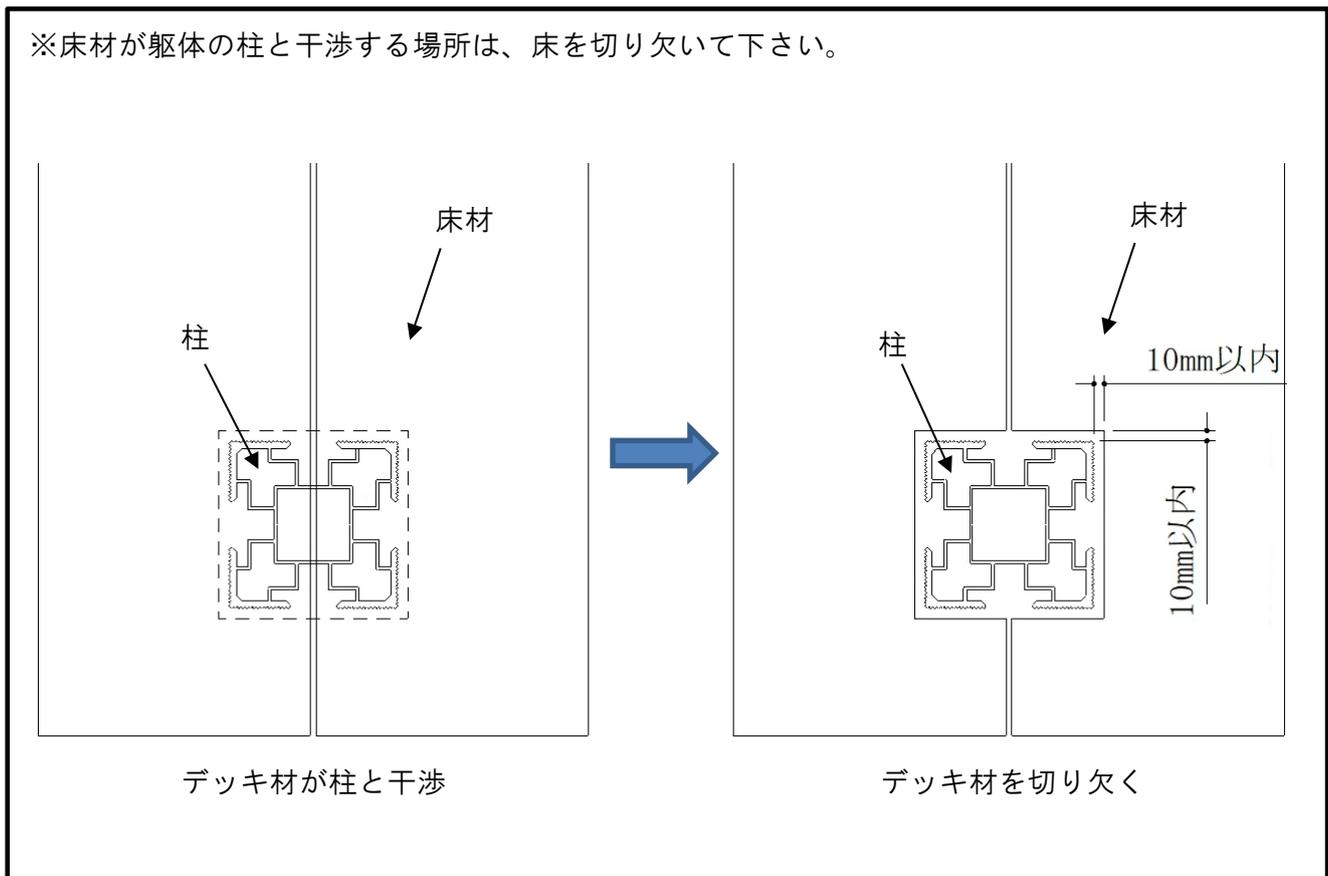
11. 床材の施工

- ① 施工手順9で大引きに取り付けた端金具に床材を固定します。
木ビスを打つ際は、必ずφ3.5ドリルで下穴をあけてから、ビス固定して下さい。
下穴は、断面の片側のみ開けて下さい。(貫通は×)

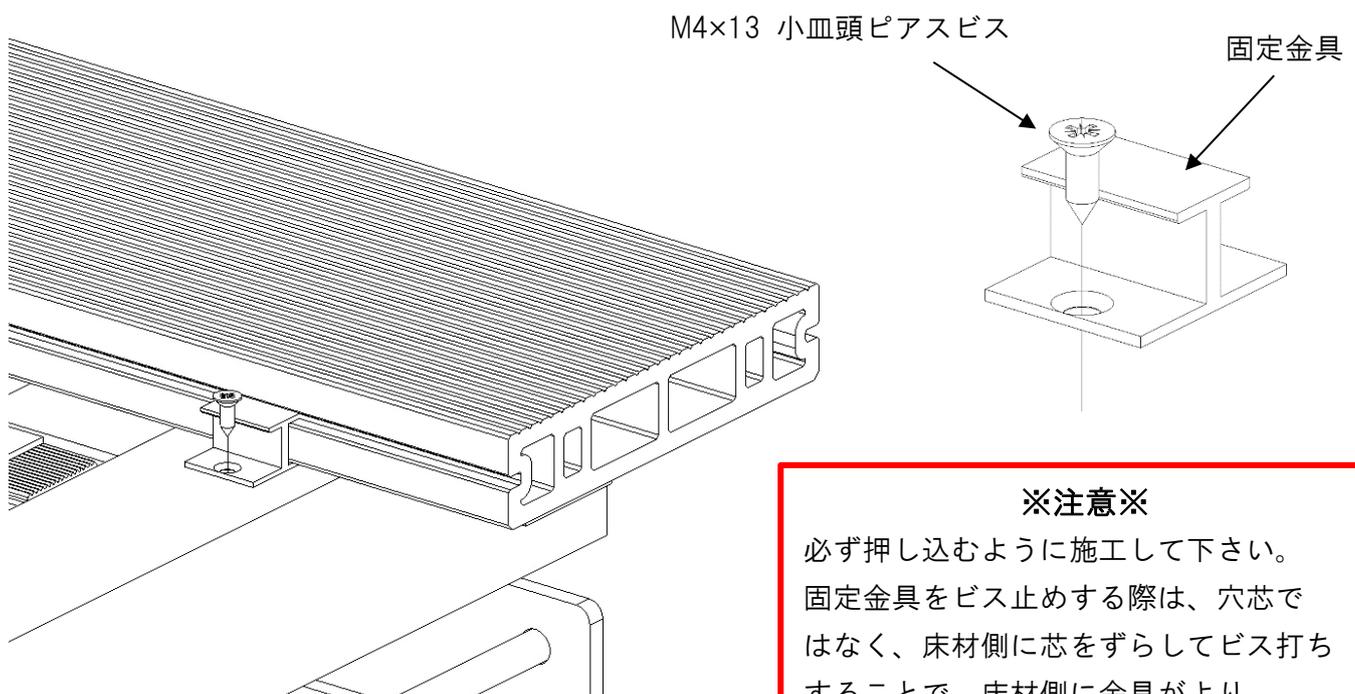


施工手順

※床材が躯体の柱と干渉する場合は、床を切り欠いて下さい。

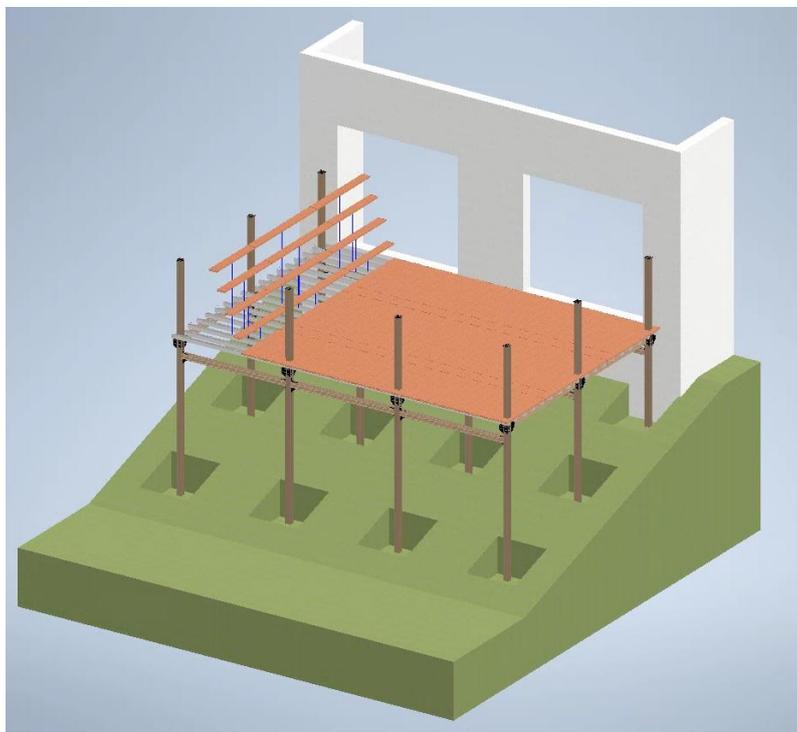
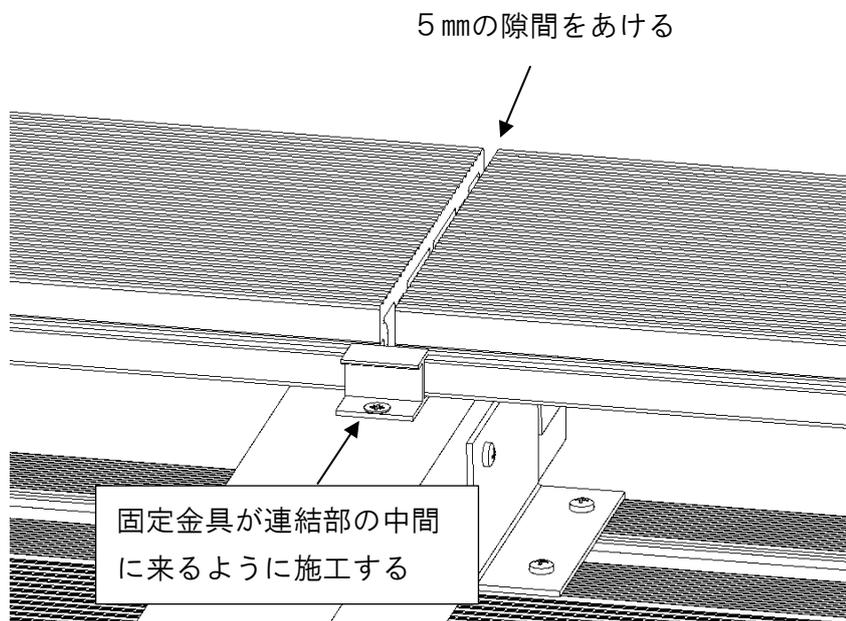


- ② 端金具と固定した床材に、固定金具を取り付けます。
大引きと床材が接する部分全て、固定金具で固定します。



施工手順

※床材が繋がる連結部は、5 mm の隙間をあけて施工してください。
また、連結部の中間に固定金具がくるように施工してください。



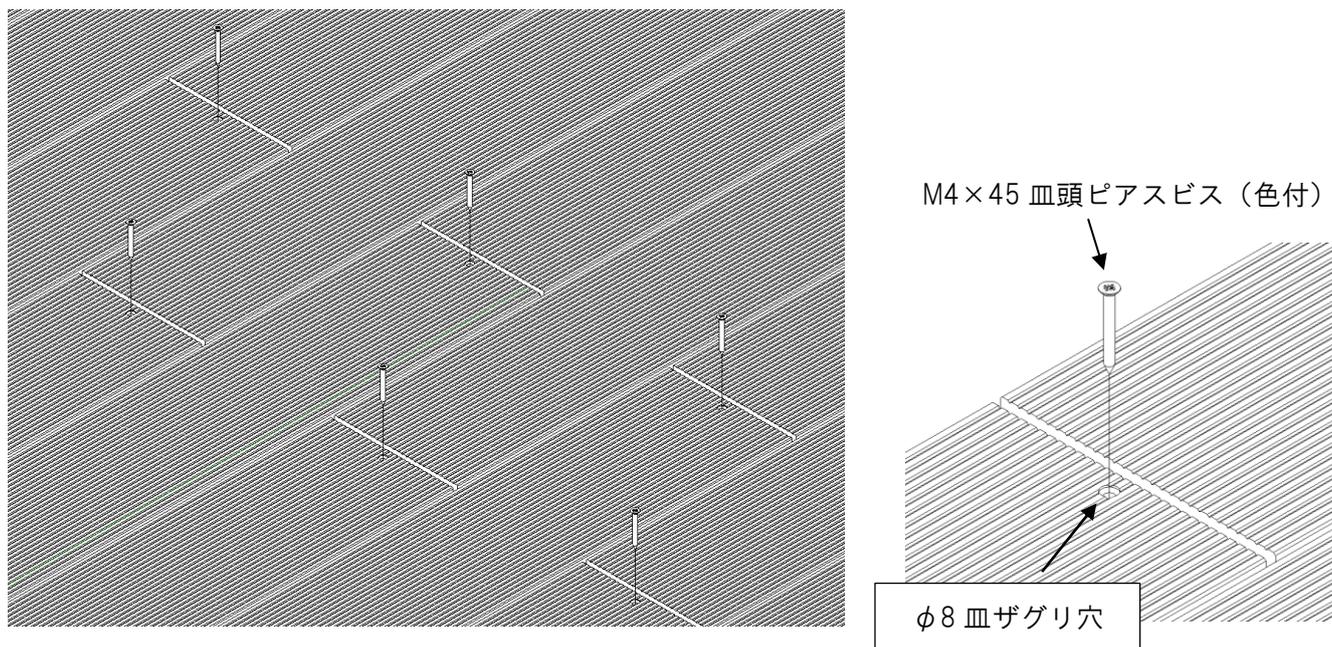
※注意※

床材の隙間は3mmとなっています。
床材を押し込むように金具を固定し、
隙間を均一にしてください。

③ 床材を、『①』と同様の手順で、大引きに取り付けた端金具に固定します。

施工手順

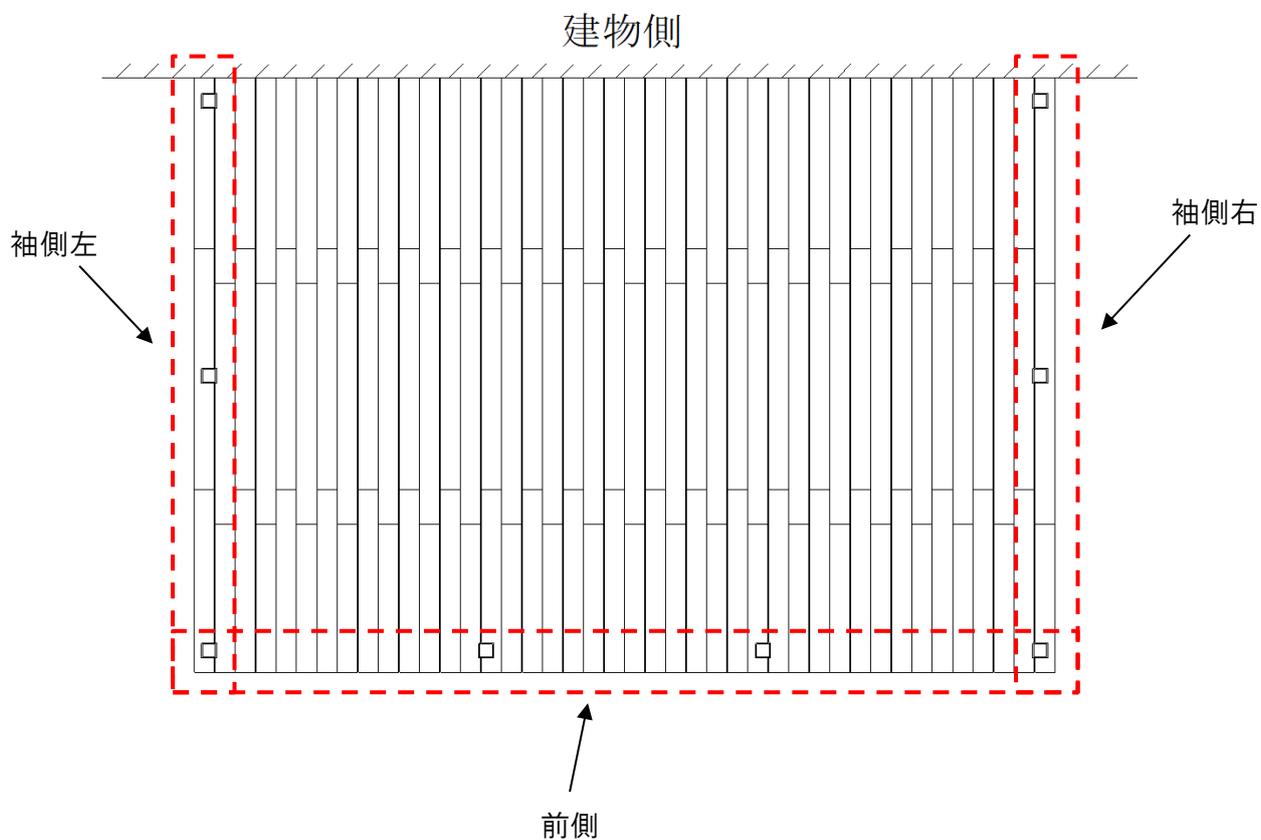
- ④ 床材のφ8皿ザグリ部に、M4×45皿頭ピアスビス（色付）を使用して、床材と大引きを固定します。



12. 幕板の施工

施工図面を確認しながら、デッキに幕板を施工していきます。

まずは、袖側の幕板から施工します。



施工手順

① 袖側の幕板固定

デッキの床材と同レベルの位置に、M4×70 皿頭タッピングビス(色付き)で固定致します。

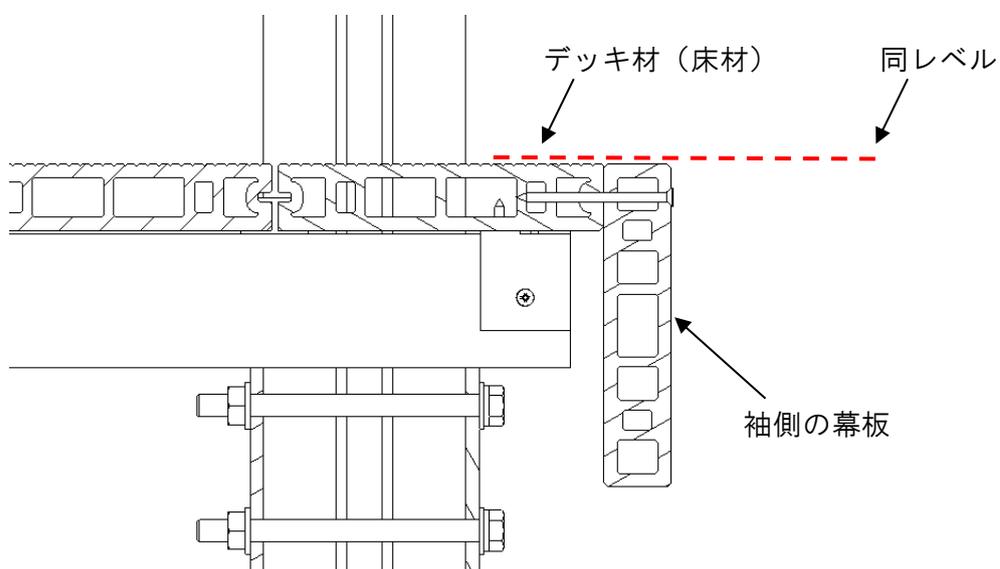
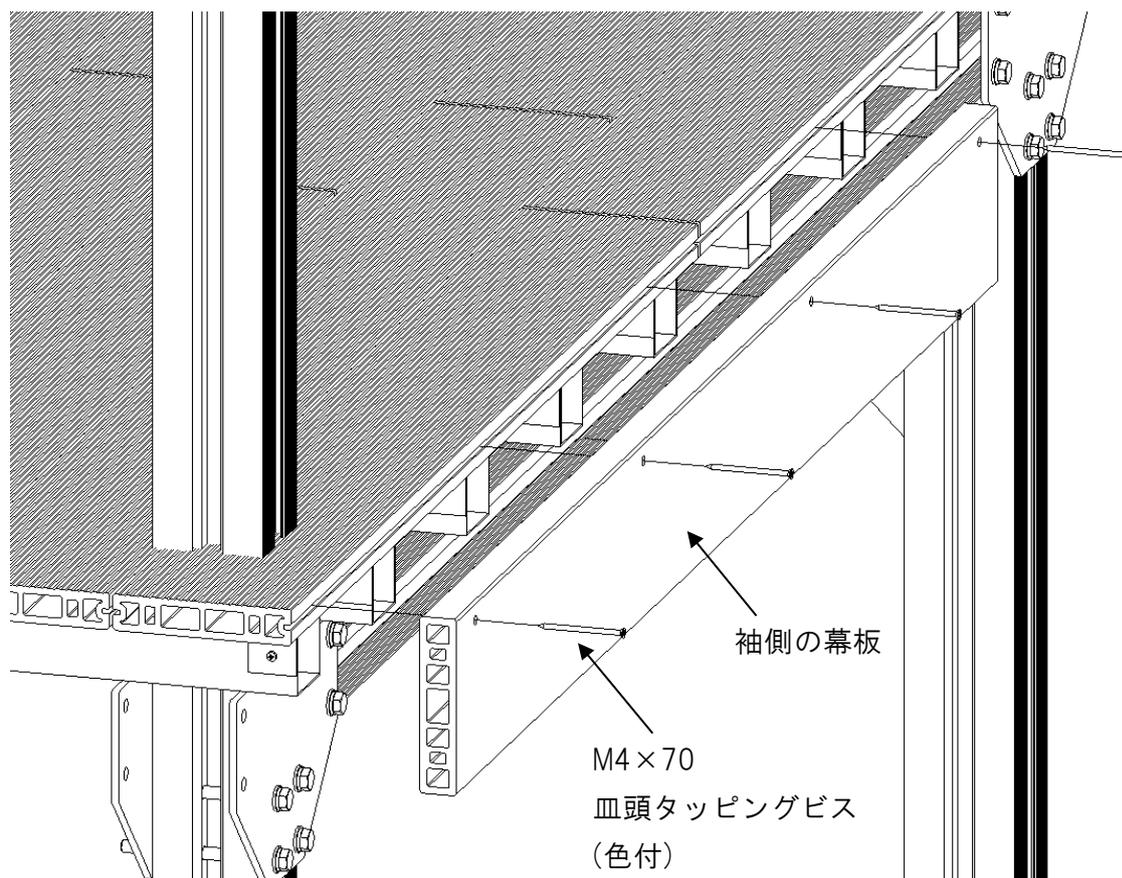
※必ず、φ3.5 ドリルで下穴をあけてから、ビス固定して下さい。

下穴がないと、幕板の固定強度に影響がございます。

※ビスを締めすぎると皿ザグリが貫通してしまう恐れがございます。

貫通してしまった際は、他の箇所です新しく穴をあけるか、新しい幕板を用意して下さい。

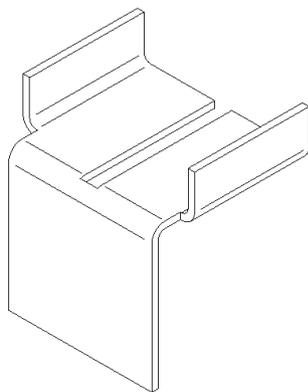
絶対にそのままの状態では置かないで下さい。



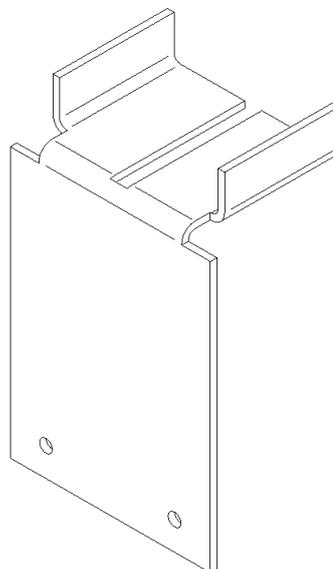
施工手順

② 前側の幕板固定

- I. 幕板金具をデッキ上に仮置きし、幕板の穴位置と幕板金具の配置を確認します。
※幕板同士が連結される箇所は、『幕板金具 中』を使用します。

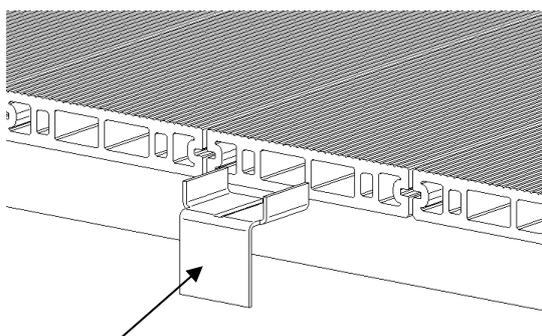


幕板金具

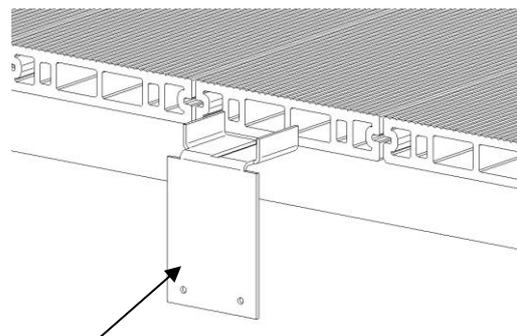


幕板金具 中

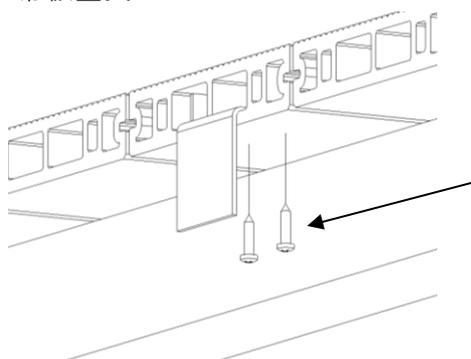
- II. 幕板金具を床材の空洞部分に入れ込み、M4×19 鍋頭ピアスビスで2カ所固定します。
その際、床材に穴はあいていないので、金具がある位置を確認した後、下から床材ごとビスで金具を貫通させます。
※ビス打ちする箇所は、床材先端より30mm程度離して下さい。



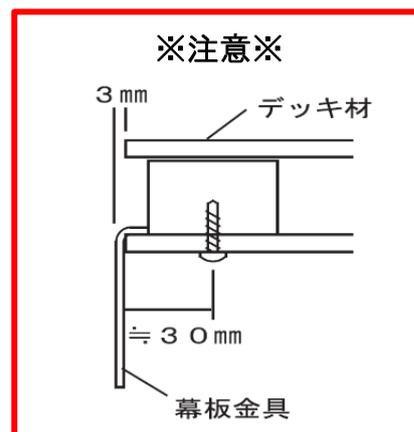
幕板金具



幕板金具 中

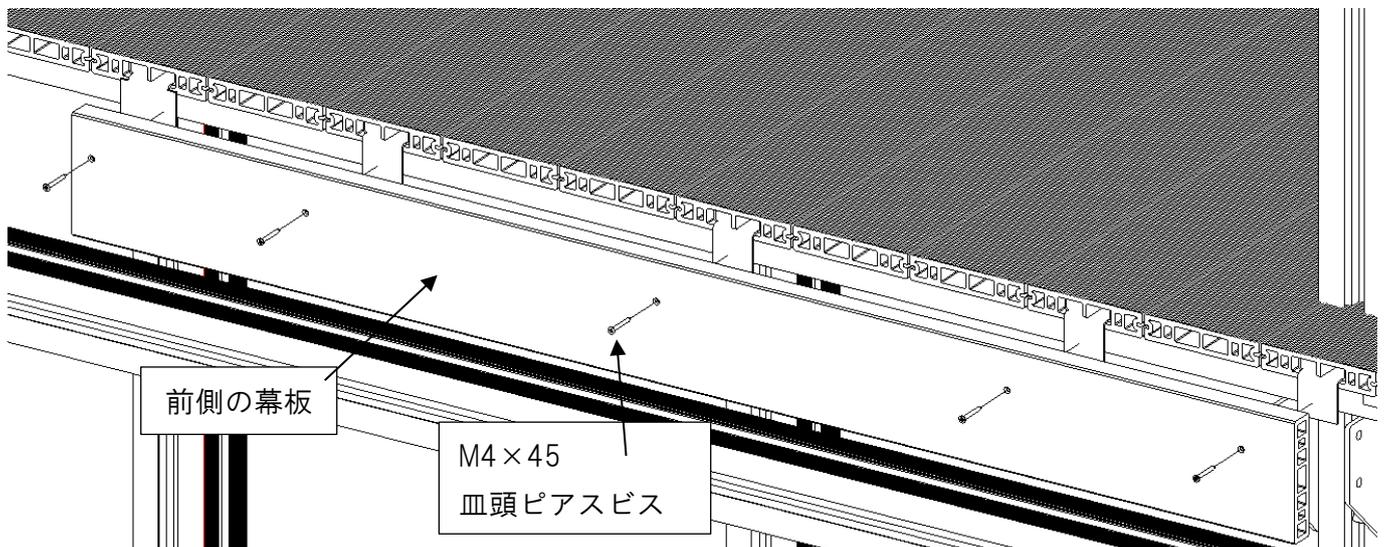


M4×19
鍋頭ピアスビス

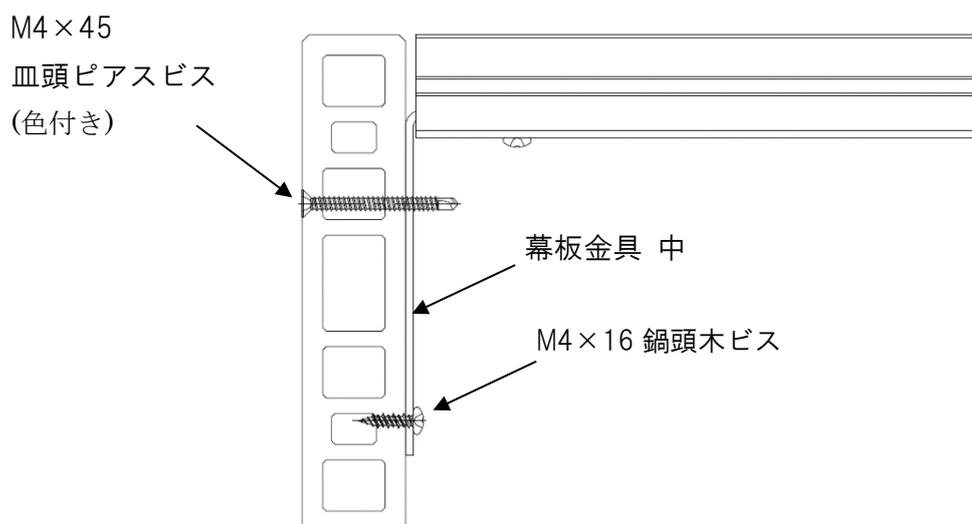


施工手順

- Ⅲ. 幕板金具に幕板を、M4×45 皿頭ピアスビス(色付き)で固定します。
施工図面を確認しながら、幕板の位置調整を行ってください。



- Ⅳ. 幕板同士の連結部には、『幕板金具 中』が配置されています。
通常の幕板金具よりも横幅・縦幅が広がっており、幕板の継ぎ目に段差が生じにくくなっています。
万が一、連結部の段差が目立つ際は、裏側から M4×16 鍋頭木ビスを 2 本幕板にうち、引き寄せることで段差をなくして下さい。



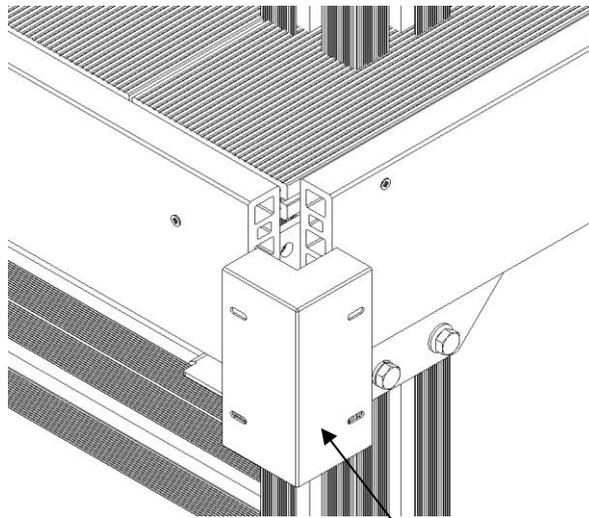
施工手順

13. 出隅カバーの施工

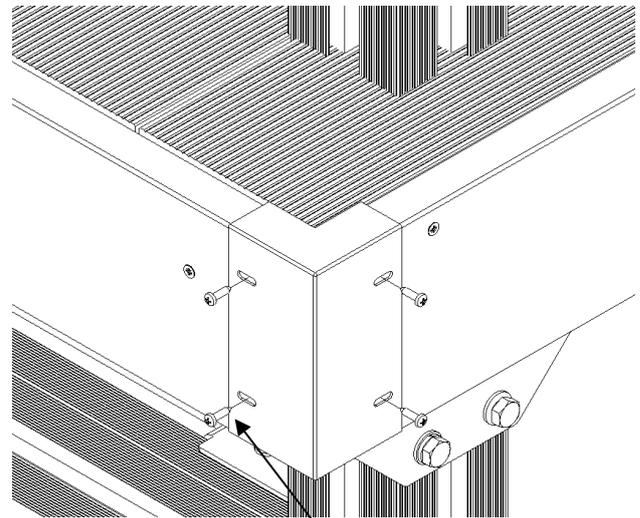
- ① 幕板の出隅部分に、幕板出隅カバーを取り付けます。幕板を設置した後、幕板出隅カバーを隙間の無いように被せ、4カ所の長穴の中心部分に M4×16 木ビス(色付き) で施工します。

※必ず、φ3.5 ドリルで下穴をあけてから、ビス固定して下さい

※ビスを締め付けすぎるとなめてしまうので、注意して下さい。



幕板出隅カバー



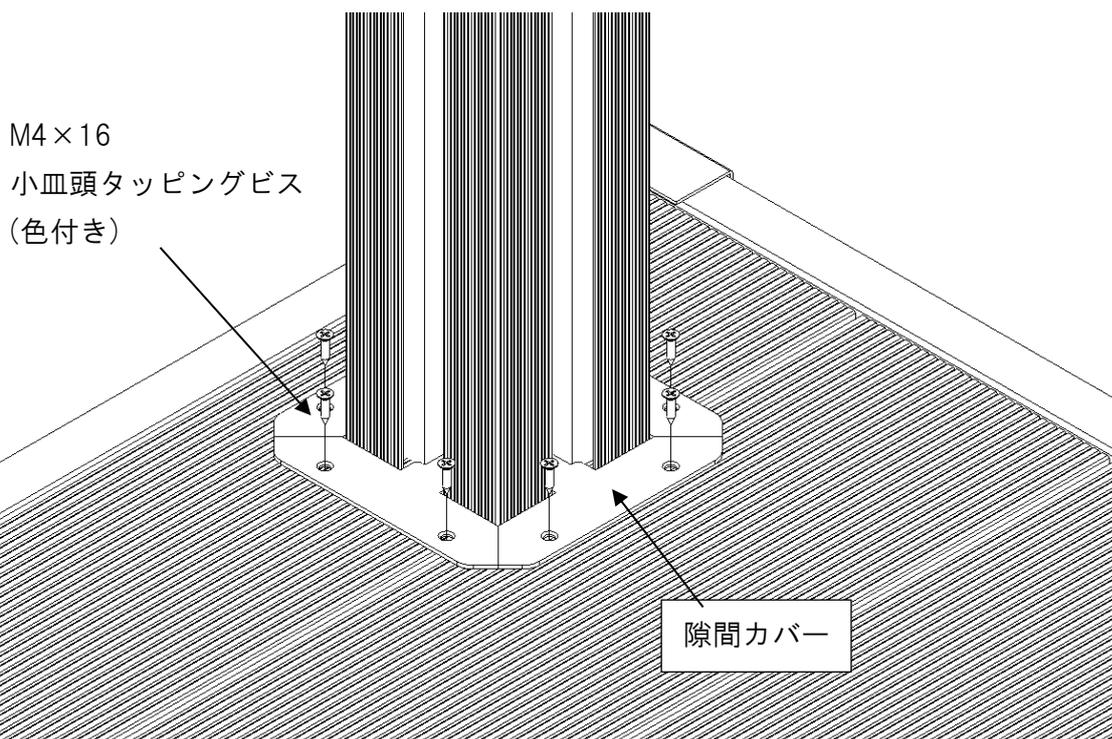
M4×16 木ビス(色付き)

14. 柱隙間カバーの施工

- ① 柱との干渉の為、切り欠いた床材部分に『隙間カバー』を施工します。

4枚の隙間カバーを柱の周りを一周するように置き、M4×16 小皿頭タッピングビス(色付き)で固定します。

※必ず、φ3.5 ドリルで下穴をあけてから、ビス固定して下さい



M4×16
小皿頭タッピングビス
(色付き)

隙間カバー

施工手順

15. 手摺の施工

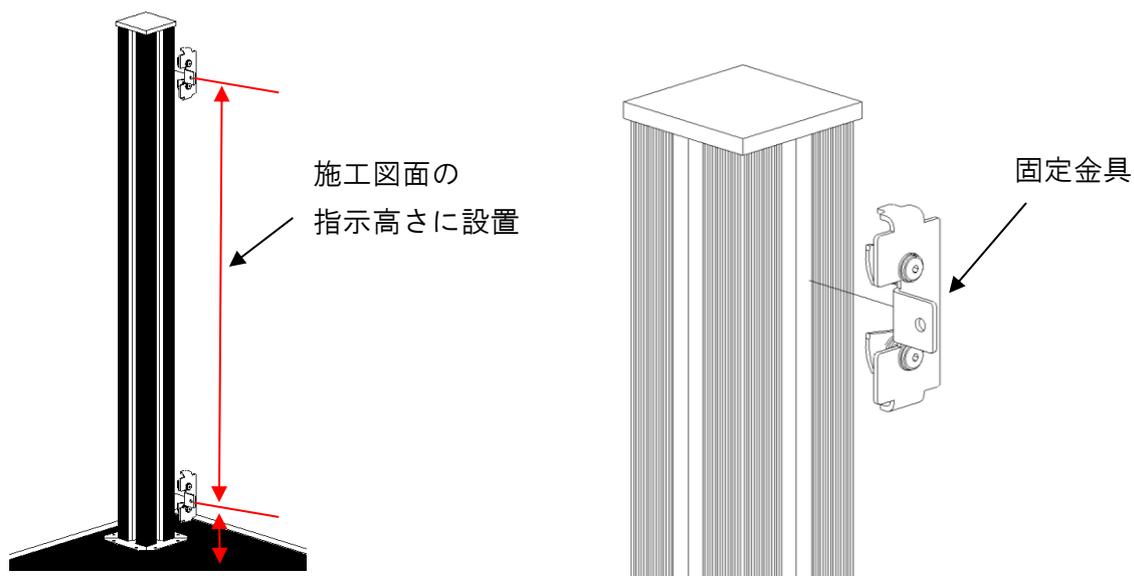
手摺の施工方法は、施工する手摺の種類によって方法が異なります。

対象となる手摺の施工図面を参照し、施工して下さい。

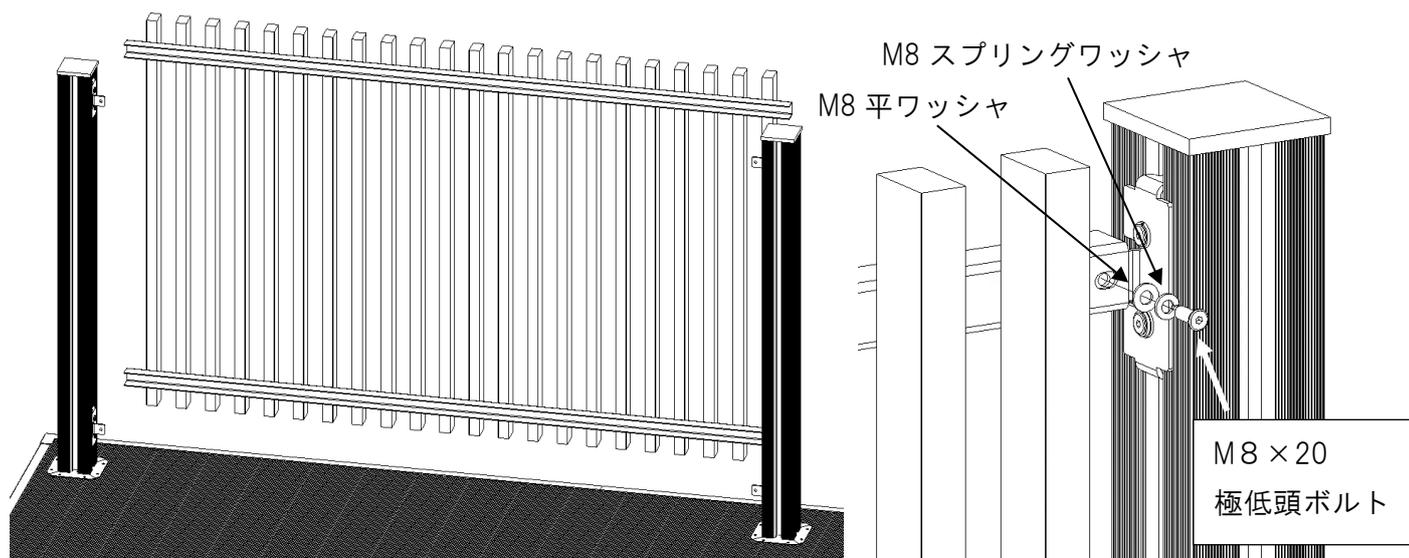
本書では、参考として縦格子手摺の施工手順書を記載します。

- ① 施工図面の寸法を確認し、手摺用の固定金具を柱に取り付けます。

※寸法を計測しながら、施工図面の指示高さに取り付けて下さい。

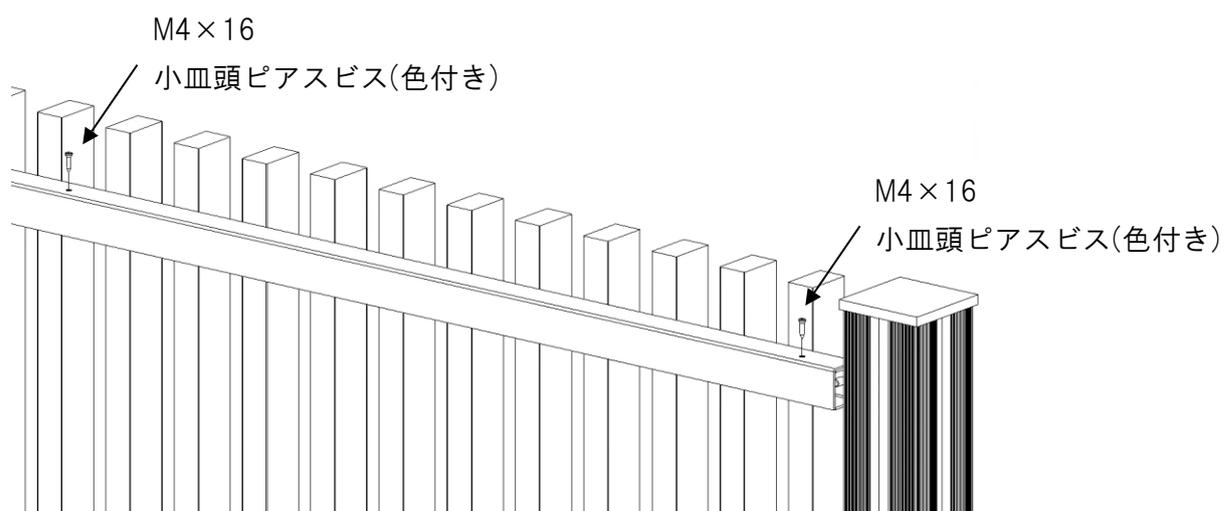
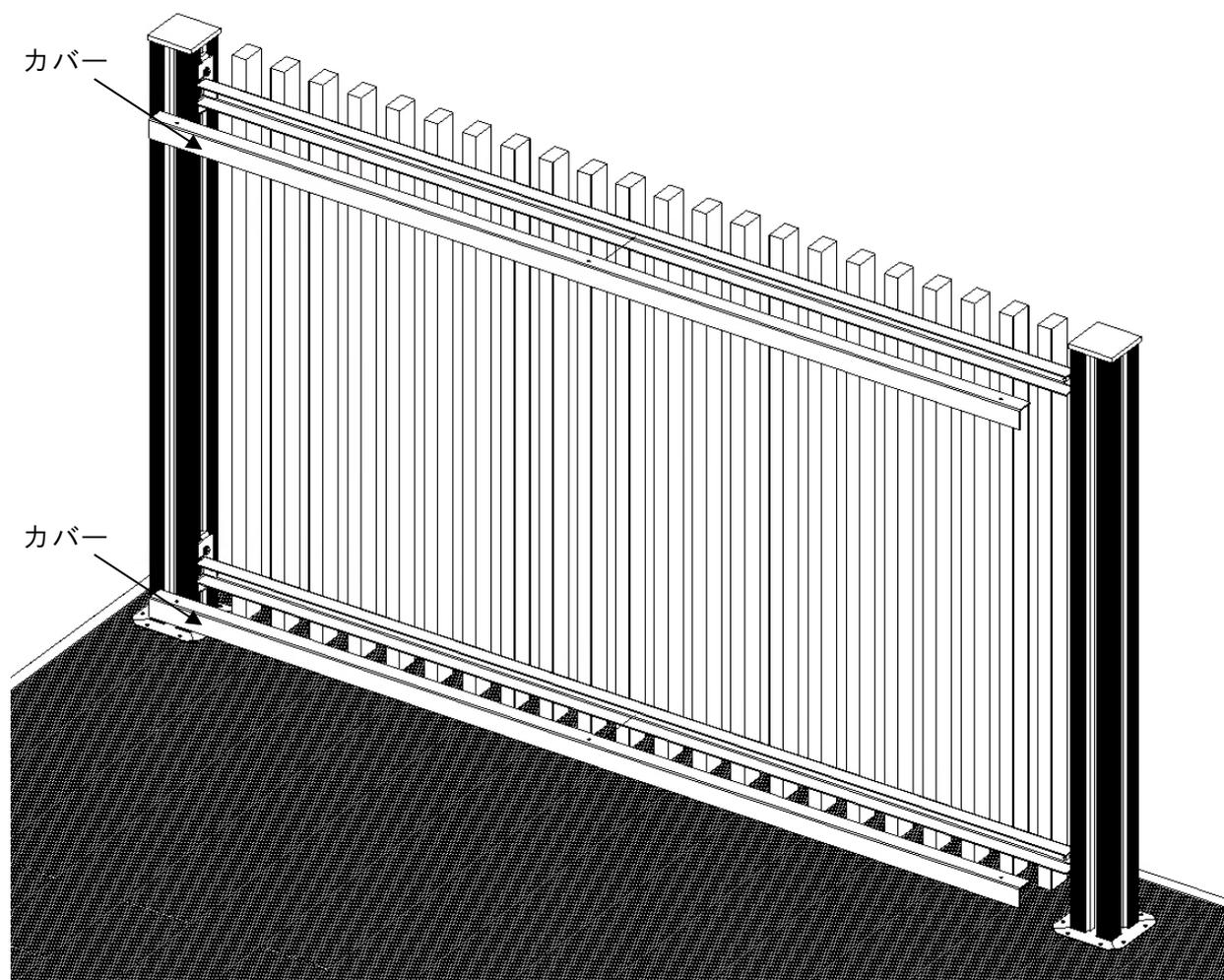


- ② 柱に取り付けた固定金具に、面材を M8×20 極低頭ボルトで取り付けます。



施工手順

- ③ 面材のフレームに、カバーを M4×16 小皿頭ピラスビス(色付き)で取り付けます。



施工手順

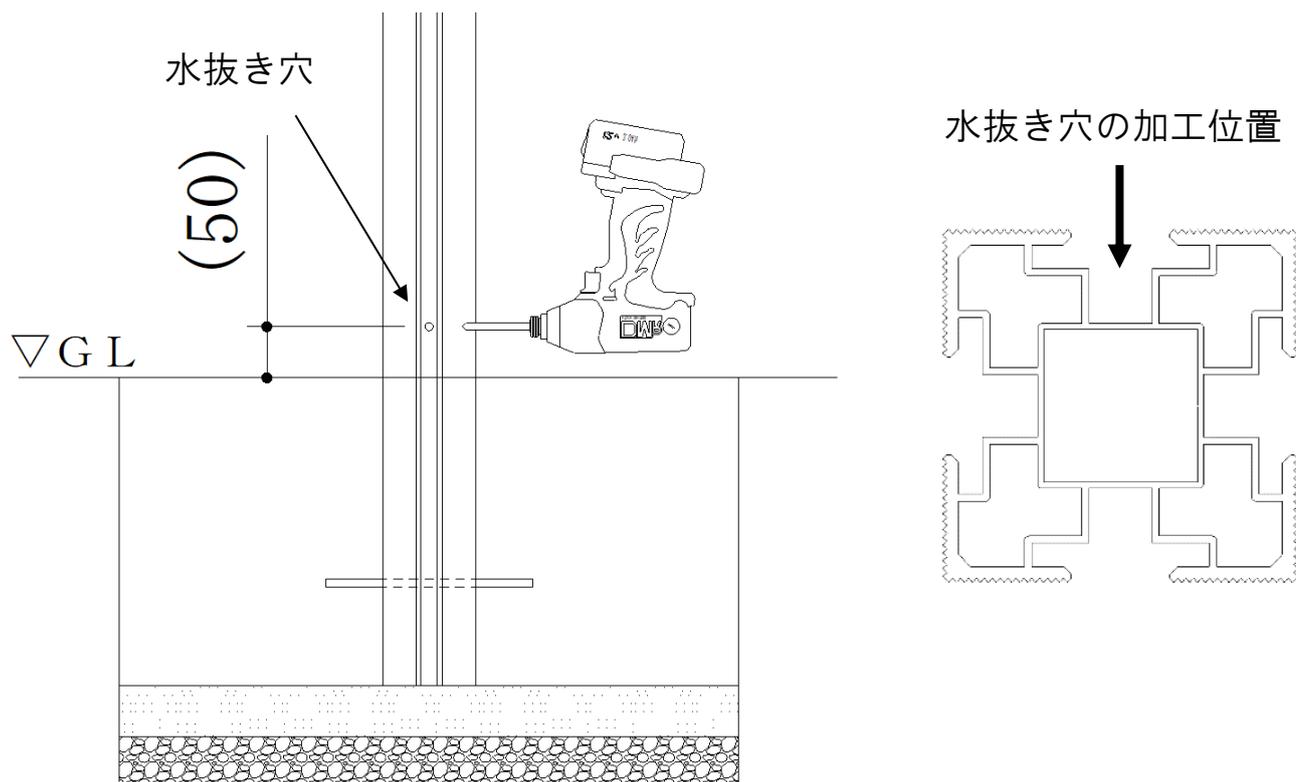
16. コンクリートの流し込み

- ① 基礎の穴に、コンクリートを流し込んで下さい。

※施工手順『8 躯体のレベル出し』の段階で、レベル・寸法に問題がなければ、
コンクリートの流し込みを行ってしまっても問題ありません。

17. 水抜き穴の加工

- ① 地面から50mm程度の高さに、 $\phi 8 \sim 10$ の水抜き穴をあけて下さい。



18. 完成

- ① 完成図となります。

